

# 北海道観光の現況

## 2021



**HOKKAIDO LOVE!**



北海道経済部観光局観光振興課

2022年2月



(北海道観光PRキャラクター キュンちゃん 北の縄文 ver)

## 目次

---

### ■ 北海道観光の現状

#### 1 観光入込客数（実人数）

- (1) 全体推移 ..... 1
- (2) 日帰り客・宿泊客の推移 ..... 2

#### 2 宿泊客延べ数

- (1) 全体推移 ..... 2
- (2) 圏域別の状況 ..... 3
- (3) 圏域別宿泊延べ人数の伸び率の推移 ..... 3
- (4) 月別宿泊客延べ数 ..... 5
- (5) 宿泊数の割合 ..... 5

#### 3 交通機関別の状況

- (1) 交通機関別来道者の推移 ..... 6
- (2) 発着別の来道者の状況 ..... 7

#### 4 観光消費額単価

- (1) 全体推移 ..... 7
- (2) 費目別消費額の推移 ..... 8

#### 5 観光総消費額

- (1) 全体推移 ..... 9
- (2) 経済波及効果（生産誘発額） ..... 9
- (3) 雇用誘発効果 ..... 10

#### 6 満足度

- (1) 全体推移 ..... 10
- (2) 項目別の満足度 ..... 11

(3) コロナ対応の満足度	・・・12
---------------	-------

## 7 リピーターの状況

(1) 全体推移	・・・13
(2) 再来訪（リピート）意向	・・・13

## 8 その他

(1) 修学旅行の受入状況	・・・14
(2) 宿泊業の状況	・・・14
(3) 旅行業の状況	・・・15
(4) 貸切バスの状況	・・・15
(5) 道内 DMO の状況	・・・16
(6) 国際会議の開催状況	・・・16
(7) 全国通訳案内士（北海道登録分）資格取得者数の状況	・・・17
(8) 北海道アウトドア資格制度に係る資格取得者数の状況	・・・17

## ■ 参考資料

- ・主な観光資源（自然公園、ラムサール条約登録湿地、世界遺産、北海道遺産）
- ・航空路線網図
- ・航空路線別輸送実績
- ・令和3年度地域政策推進事業・観光関連分
- ・令和3年度 観光局の施策体系

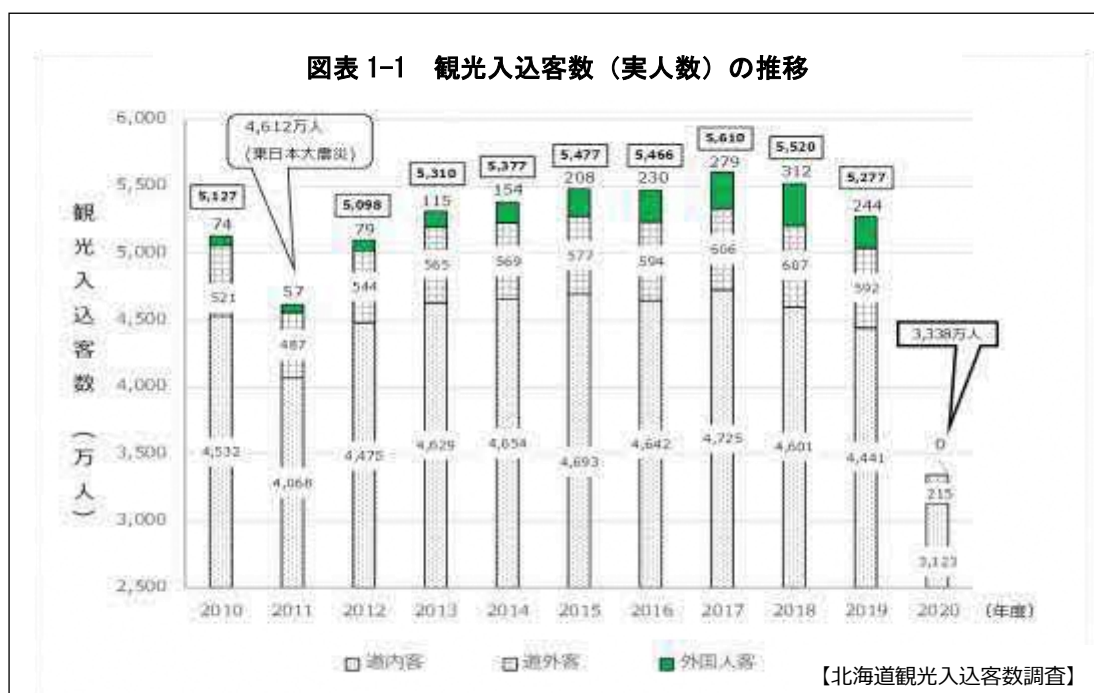
## ■ 北海道観光の現状

### 1 観光入込客数（実人数）

#### （1）全体推移

北海道の観光入込客数（実人数）は、東日本大震災が起こった2011年3月以降、微増から横ばいで推移していたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行、拡大の影響により、前年度比36.7%減の3,338万人と大きく減少し、現在の基準で統計を開始した2010年度以降、人数は最低、減少幅は最大となった。

道内客は前年度比29.7%減の3,123万人、道外客は前年度比63.7%減の215万人、訪日外国人来道者数は、観光客に対する入国拒否等の措置を講じていることから、0万人となった。



## (2) 日帰り客・宿泊客の推移

日帰り客・宿泊客別の観光入込客数は、2020年度は、「道内客 日帰り」が前年度比25.3%減の2,619万人、「道内客 宿泊」が前年度比46.0%減の504万人、「道外客 日帰り」が前年度比47.4%減の10万人、「道外客 宿泊」が前年度比64.2%減の205万人となった。



## 2 宿泊客延べ数

### (1) 全体推移

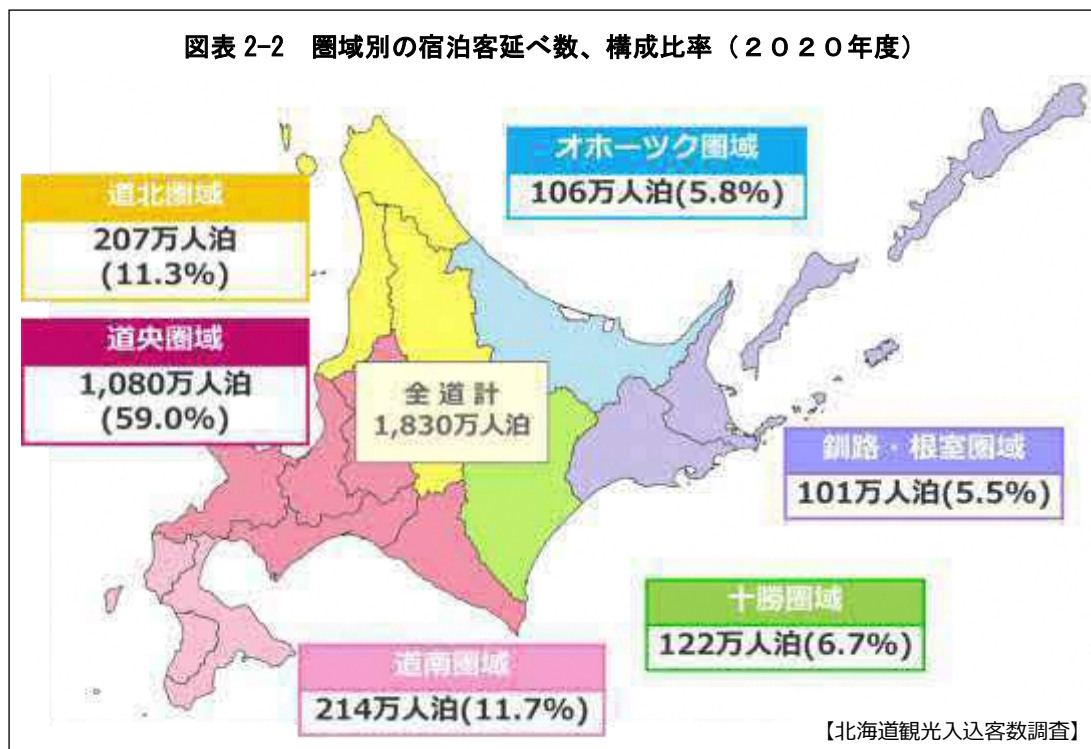
市町村における宿泊客数を合計した総数（延べ宿泊数）は、近年増加基調で推移していたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行、拡大の影響により、前年度比49.5%減の1,830万人泊と大きく減少し、現在の基準で統計を開始した2010年度以降、最低を記録した。また、訪日外国人来道者宿泊客延べ数は、前年度比99.2%減の6万2,000人泊となった。





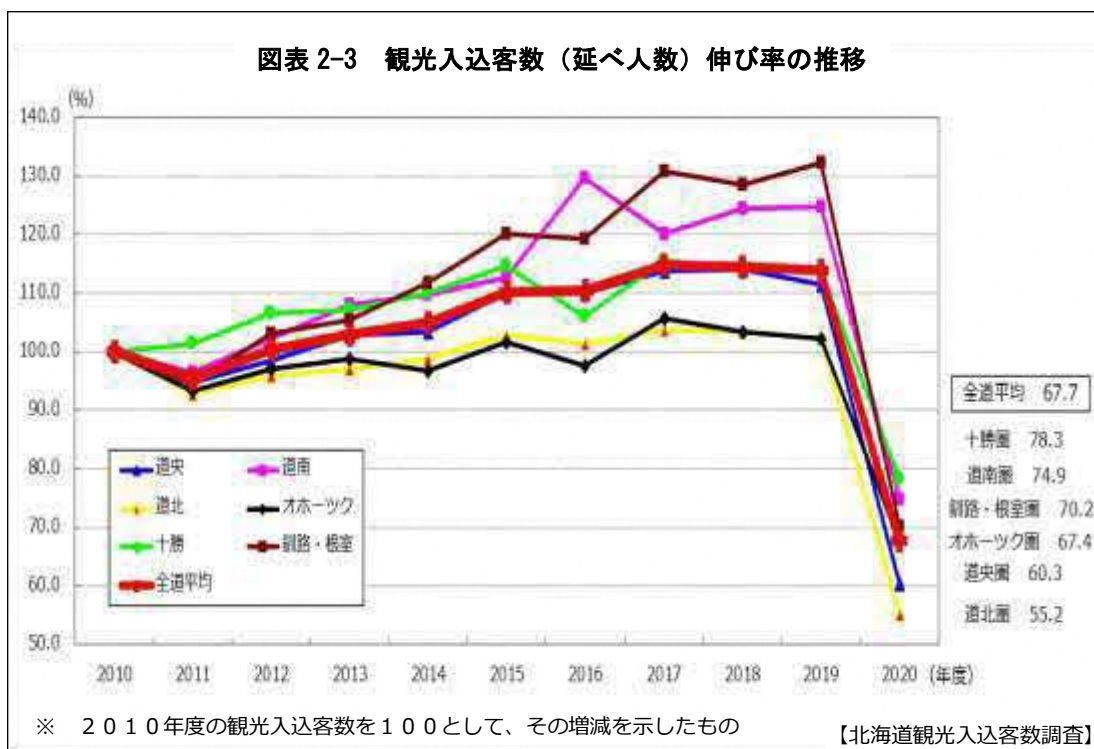
## (2) 圏域別の状況

圏域別の宿泊客延べ数では、2020年度は、「道央圏域」が1,080万人泊と全道の59.0%と半数以上が集中しており、地域間に大きな偏在が見られる。

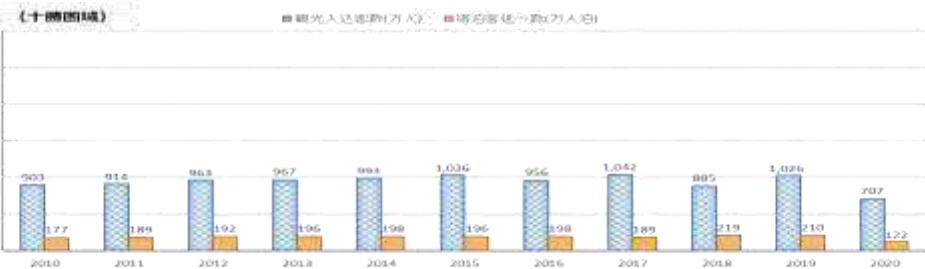
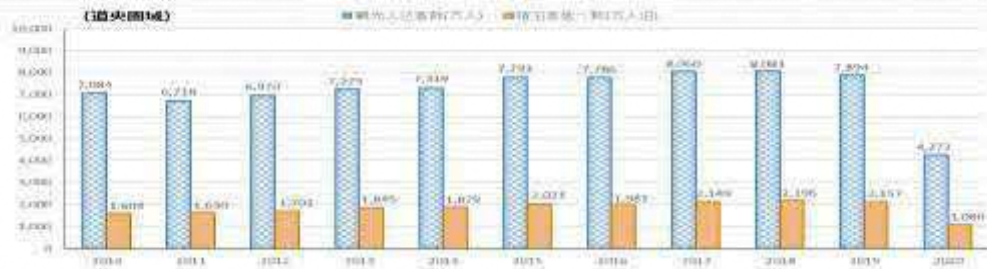


## (3) 圏域別宿泊延べ人数の伸び率の推移

近年の圏域別観光入込客数（延べ人数）伸び率の推移をみると、地域により差があるものの、6圏域とも増加傾向であったが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全圏域で前年度に比べて大きく減少し、2010年度比2割から4割の減少となった。



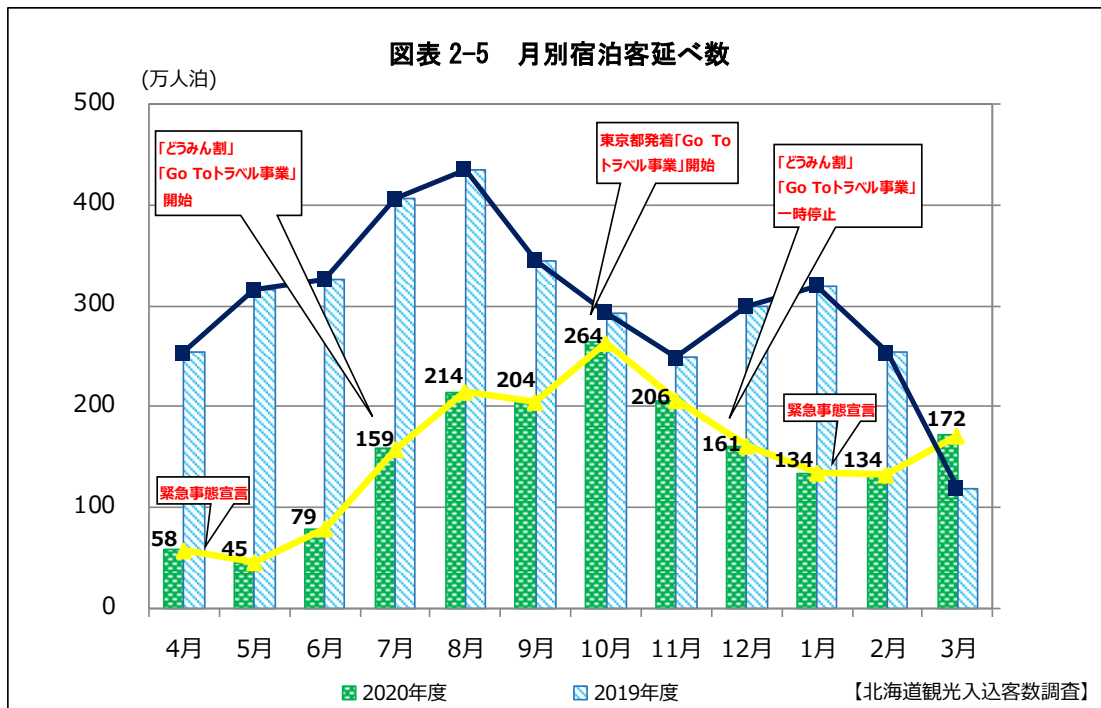
図表 2-4 圏域別入込客数・宿泊客延べ数の推移



【北海道観光入込客数調査】

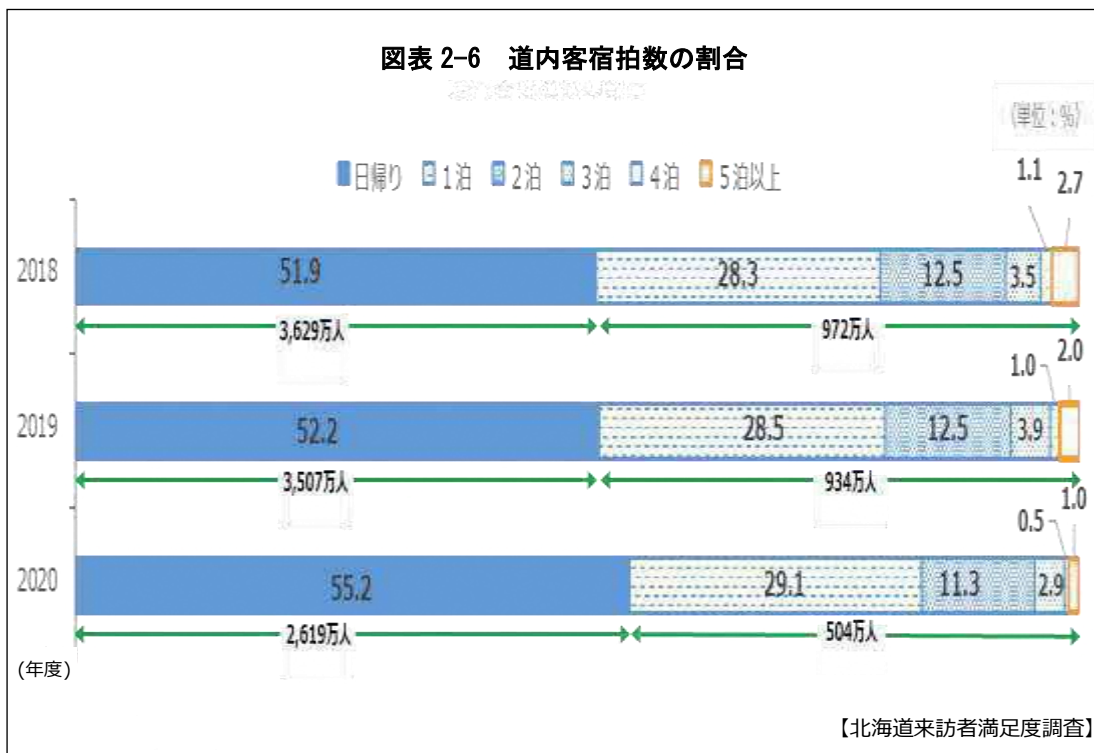
#### (4) 月別宿泊客延べ数

本道の観光は、近年、7月～9月の夏季と12月～2月の冬季の二つのピークがあるが、2020年度は「どうみん割」や「Go To トラベル事業」、市町村独自の宿泊助成キャンペーン等による効果もあり、7月以降は旅行需要の回復傾向が見られ、10月に264万人泊でピークを迎えた。

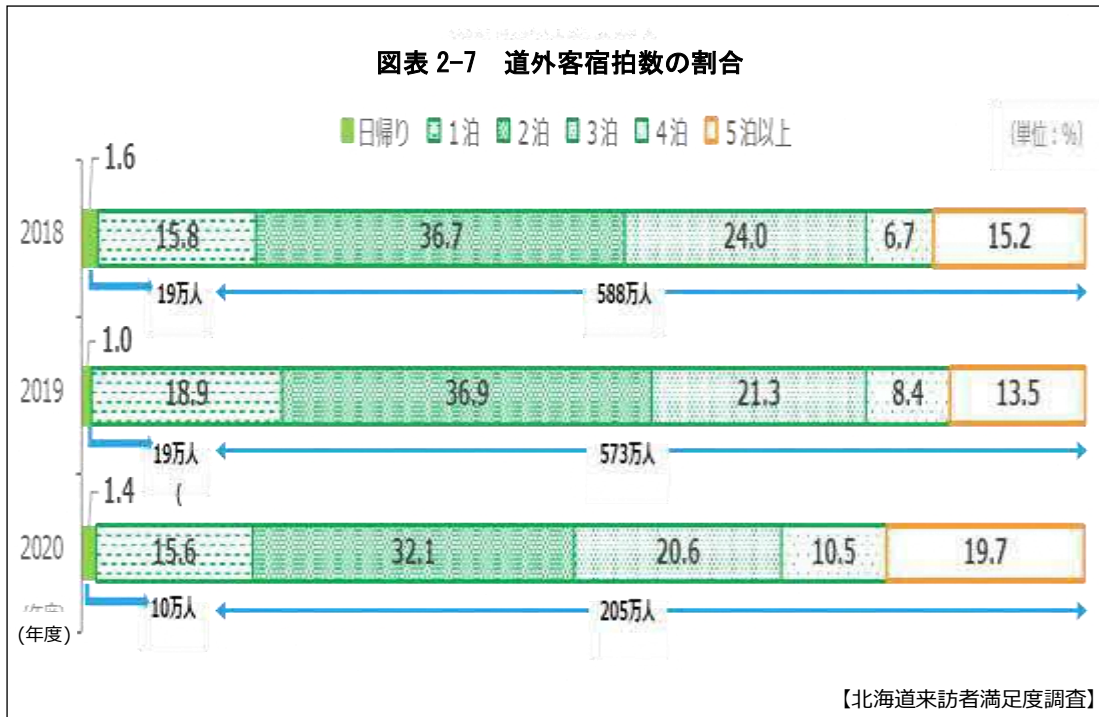


#### (5) 宿泊数の割合

宿泊客における宿泊日数の割合は、2020年度は、道内客で「1泊」の割合が増加したが、「2泊以上」の割合がいずれも減少したほか、道外客は、「4泊」「5泊以上」の割合が増加していることに加え、「3泊以上」の割合が5割を超えた。







### 3 交通機関別の状況

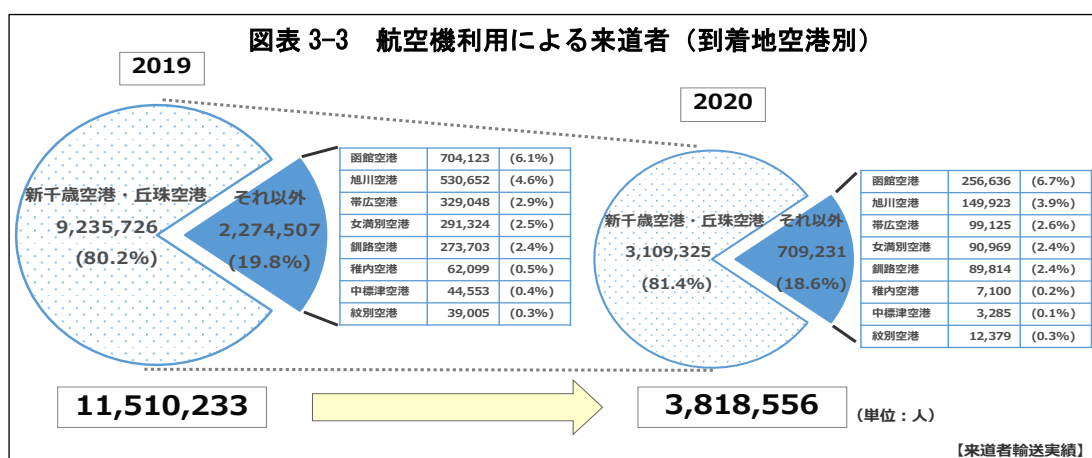
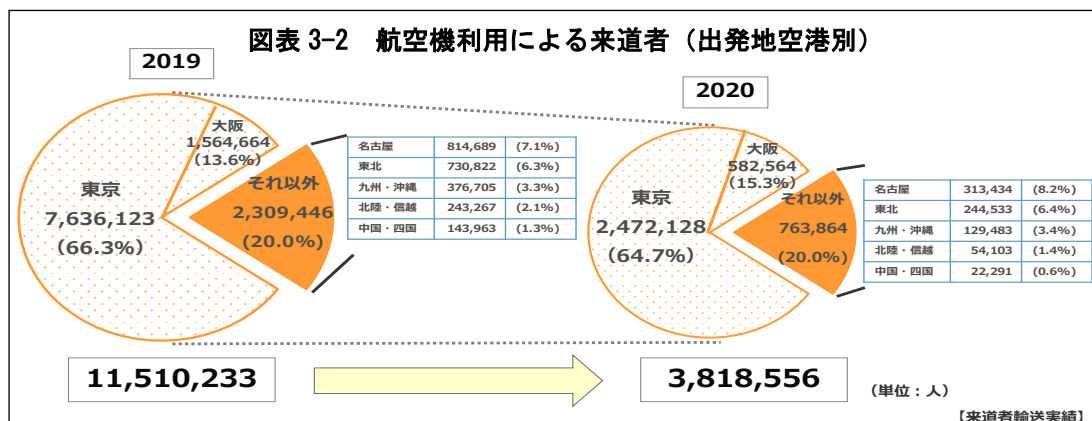
#### (1) 交通機関別来道者の推移

道外から本道を訪れる来道者は、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行、拡大の影響により前年度比65.2%減の約461万5,000人と大きく減少したが、利用した交通機関別の割合には、大きな変化は見られなかった。



## (2) 発着別の来道者の状況

航空機を利用した来道者の出発地別の割合では、2020年度は前年度から大きな変化はなく、東京・大阪からが約8割、到着地別の割合では、「新千歳空港・丘珠空港」が約8割となっている。



## 4 観光消費額単価

### (1) 全体推移

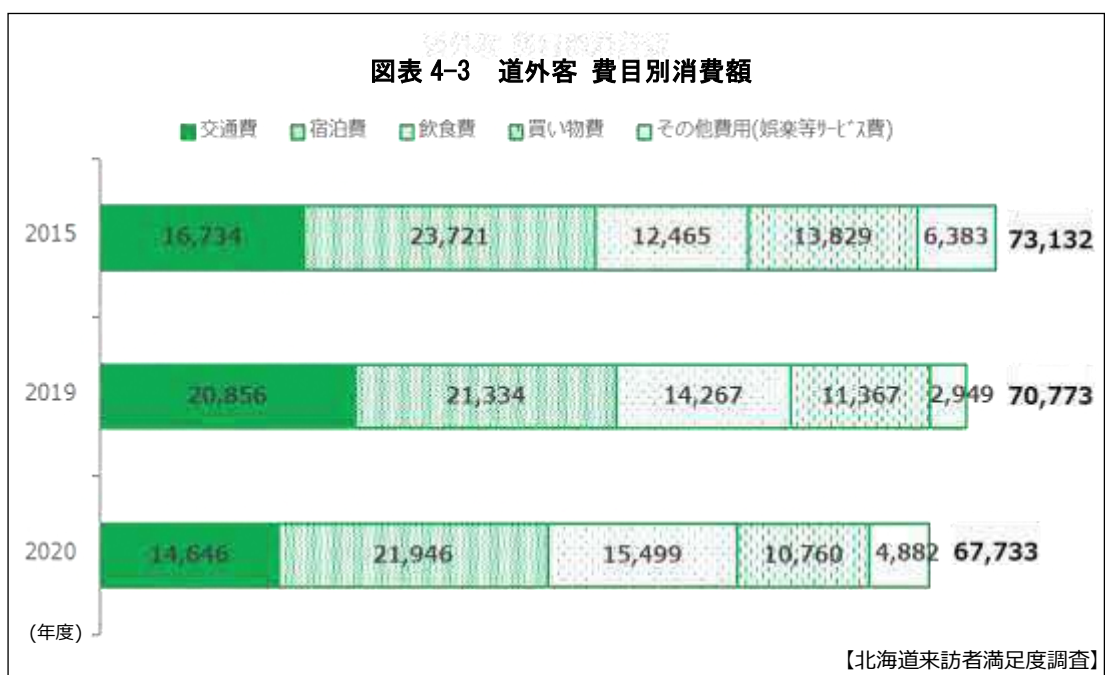
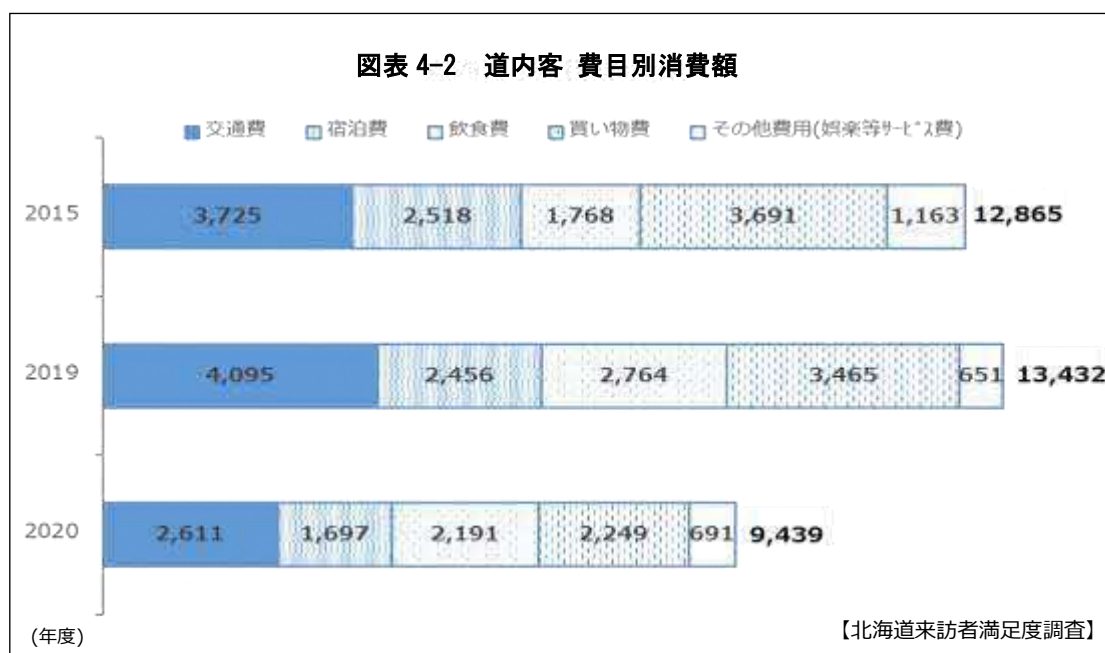
観光客が1回の観光行動で消費する金額は、2020年度は、道内客が前年度比29.7%減の9,439円、道外客が前年度比4.3%減の6万7,733円となっており、いずれも前回調査から低下した。

なお、外国人の観光消費額については、観光客に対する入国拒否等の措置を講じていることから、外国人客が激減しているため、調査を実施していない。（※以下、同様。）



## (2) 費目別消費額の推移

観光客が1回の観光行動で消費する費目別の内訳は、2020年度は、道内客は、「その他費用（娯楽等サービス費）」を除き、すべての費目において減少したほか、道外客は、「交通費」の減少が目立ったが、「宿泊費」や「その他費用（娯楽等サービス費）」は増加した。

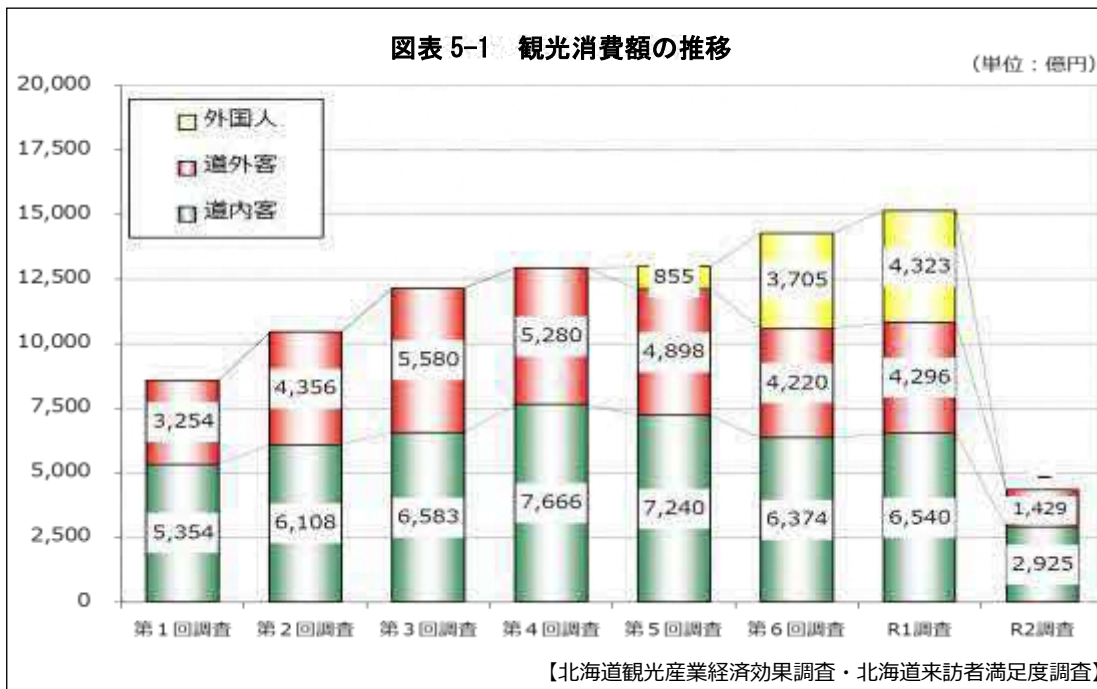


## 5 観光総消費額

### (1) 全体推移

観光総消費額は、第1回調査以降増加基調にあったが、R2調査（2020年度）では、道内客が前年度比55.3%減の2,925億円、道外客は前年度比66.7%減の1,429億円となった。

また、これまで順調に伸びていた訪日外国人による消費がほぼ消失したことから、全体では前年度比71.3%減の4,354億円と大きく減少した。



### (2) 経済波及効果（生産誘発額）

経済波及効果（生産誘発額）とは、ある産業部門（本件では観光関連産業部門）に消費や投資（最終需要）が発生した時に、次々と他産業への生産の誘発が広がっていくことであり、この考えに基づき、R2調査（2020年度）による観光消費がもたらす生産誘発額は、前年度比71.0%減の6,364億円と推計され、このうち観光消費により生じる直接効果と第一次間接効果の和が5,009億円、第二次間接効果が1,356億円と推計された。

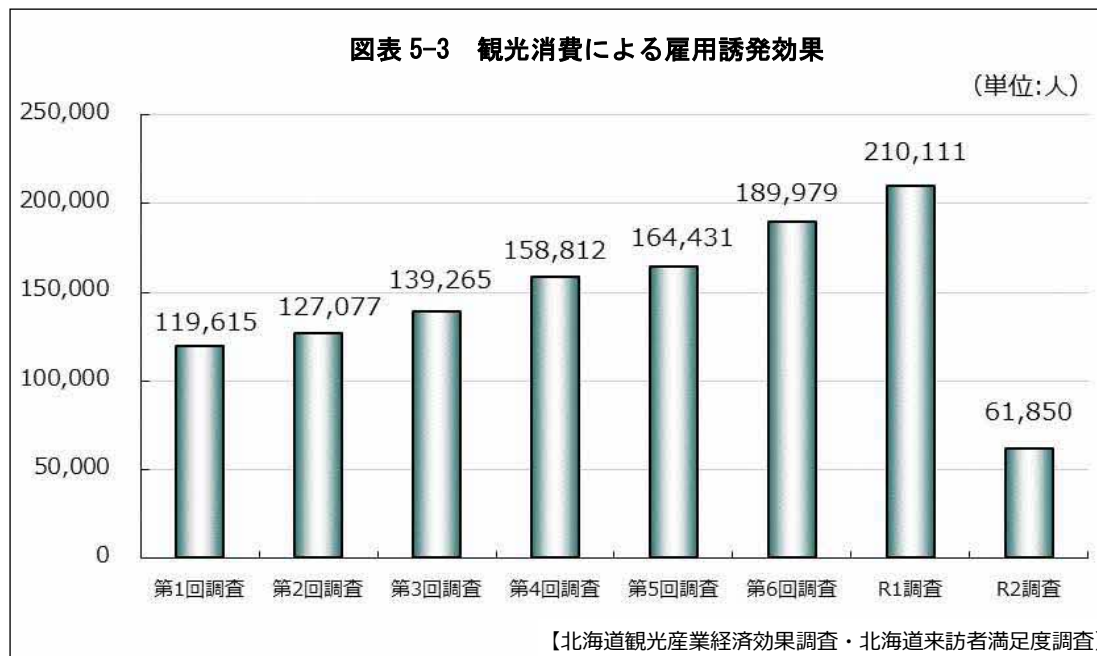




### (3) 雇用誘発効果

雇用誘発効果は、消費や投資（最終需要）により誘発された雇用者数で、2020年度の観光消費による生産誘発額6,364億円は、約6万2,000人の雇用効果を生み出すと推計されている。

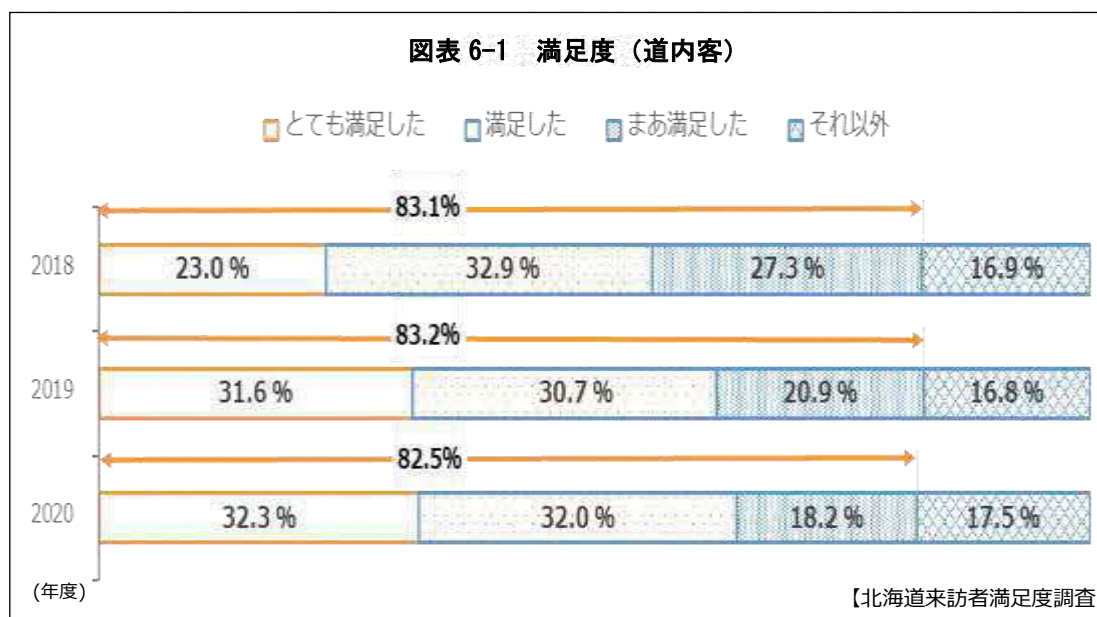
なお、雇用誘発効果については、第1回調査以降増加基調にあったが、2020年度は、前年度比70.6%減と大きく減少した。

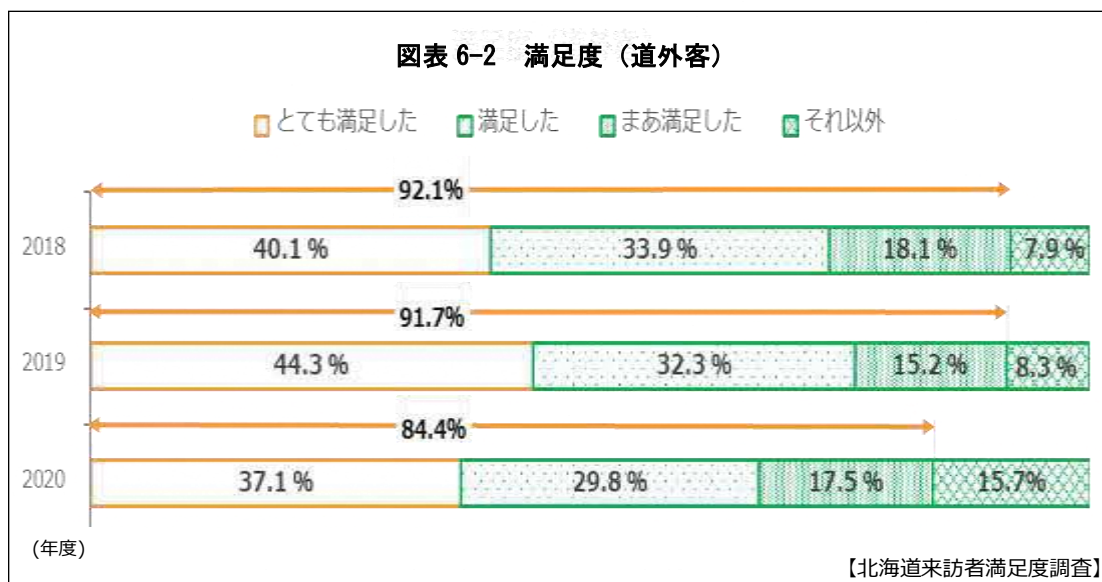


## 6 満足度

### (1) 全体推移

観光・旅行全体に対する「とても満足した」、「満足した」、「まあ満足した」と回答した割合の合計は、2020年度で道内客、道外客ともに8割を超えたが、「とても満足した」に限ると、道内客で32.3%と前年に比べ0.7ポイント改善する一方で、道外客は37.1%と前年に比べ7.2ポイント低下した。





## (2) 項目別の満足度

満足度を項目別に見ると、2020年度は、交通機関やWi-Fi 設備環境についての満足度が道内容で16パーセント台、道外客で20パーセント台にとどまるなど低い結果となったほか、ほとんどの項目で満足度が低下しており、特に道外客の「観光・旅行全体について」（前年度比▲8.2ポイント）や、道内容の「おみやげ品について」（同▲5.3ポイント）が大きく低下している。

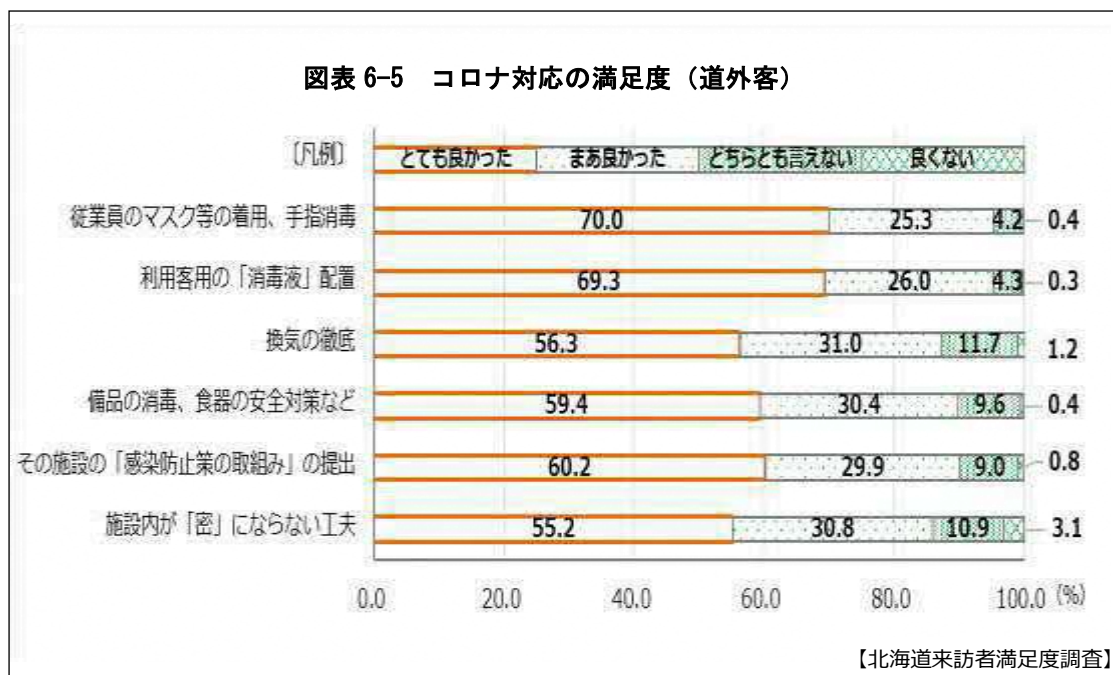
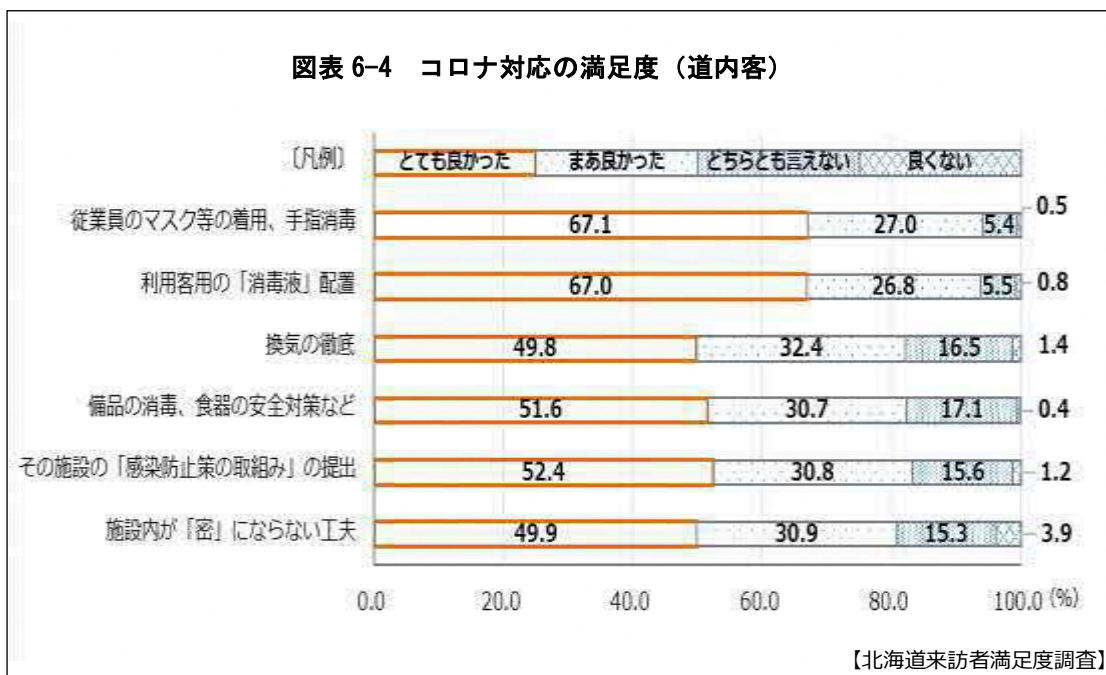
**図表 6-3 項目別の満足度**

質問項目	分類	「とても満足した」と回答した割合(%)		
		2019年度	2020年度	差分
観光・旅行全体について	道内容	31.6	30.7	▲0.9
	道外客	44.3	36.1	▲8.2
各観光地での食事について	道内容	31.7	27.6	▲4.1
	道外客	44.1	44.3	0.2
おみやげ品について	道内容	27.1	21.8	▲5.3
	道外客	36.1	33.6	▲2.5
宿泊施設について	道内容	27.3	30.7	3.4
	道外客	35.2	36.1	0.9
観光施設について	道内容	23.2	20.6	▲2.6
	道外客	35.0	31.3	▲3.7
交通機関について	道内容	18.5	16.5	▲2.0
	道外客	30.0	26.3	▲3.7
Wi-Fi 設備環境について	道内容	17.6	16.6	▲1.0
	道外客	26.9	24.0	▲2.9
景観について	道内容	31.9	28.8	▲3.1
	道外客	43.9	42.1	▲1.8

【北海道来訪者満足度調査】

### (3) コロナ対応の満足度

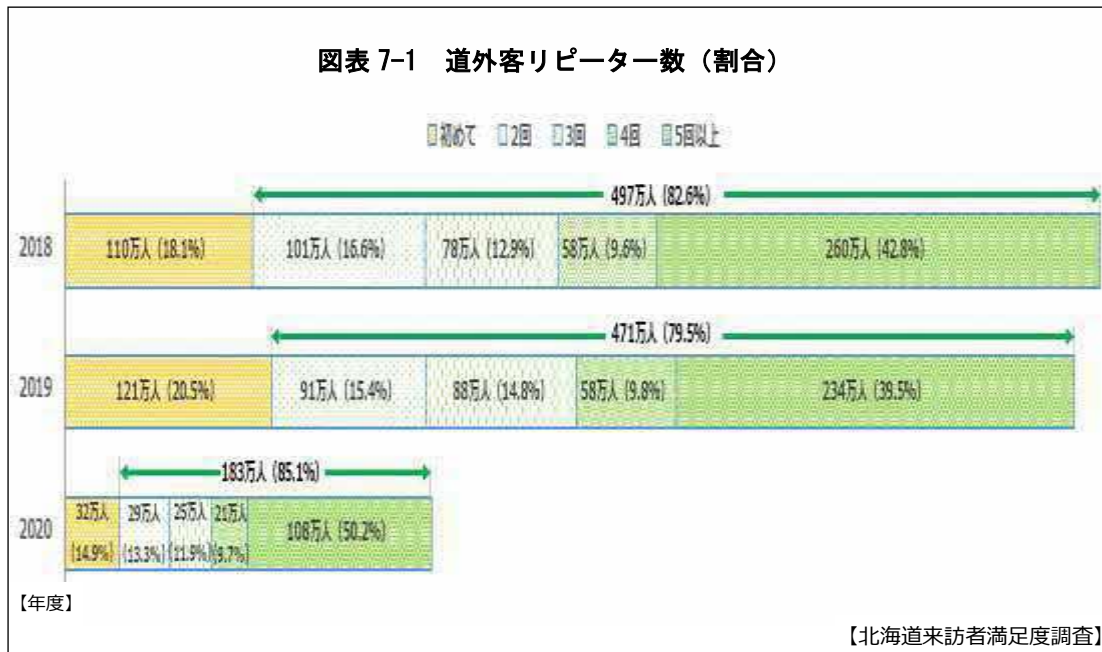
コロナ禍のもと、コロナ対応の満足度については、「従業員のマスク等の着用、手指消毒」及び「利用客用の『消毒液』配置」について、道内容、道外客ともおおむね7割程度が「とても良かった」と評価する一方で、その他の項目はおおむね5割程度にとどまっている。



## 7 リピーターの状況

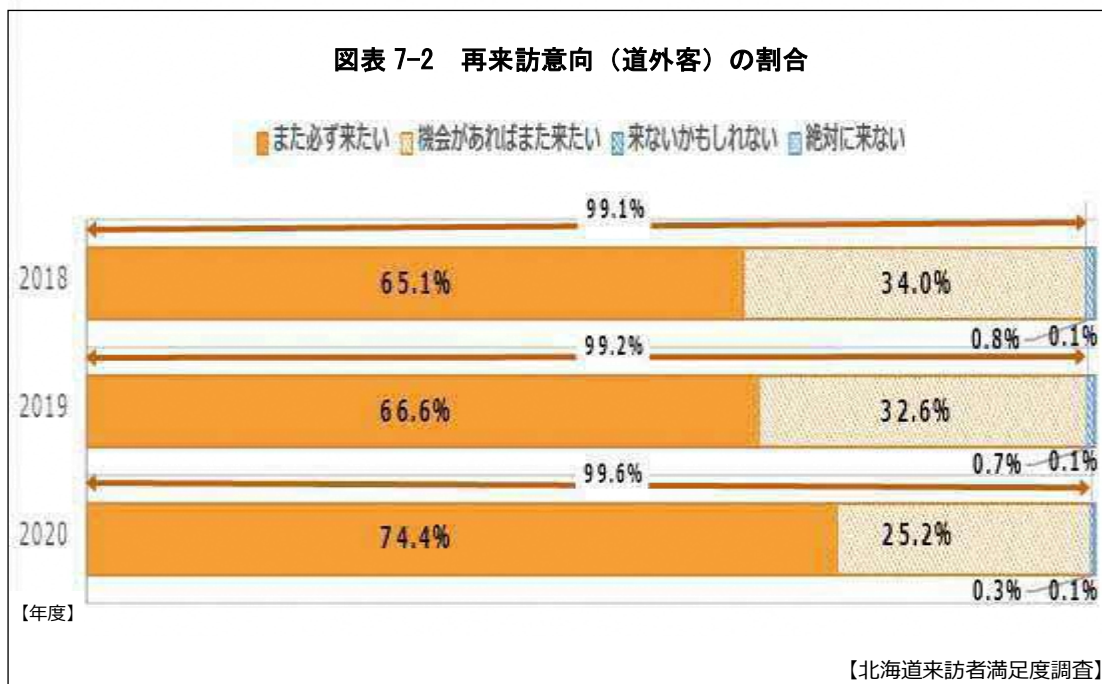
### (1) 全体推移

本道を訪れた道外客のうち、過去に本道を訪れた経験のあるリピーターは、2020年度は183万人で全体の8割以上（2回～5回以上）を占めているほか、5回以上の来道経験を持つ「北海道ファン」も5割を超えている。



### (2) 再来訪（リピート）意向

道外客の北海道への再来訪意向については、2020年度は「また必ず来たい」が74.4%と前年度から大きく増加し、「機会があればまた来たい」の25.2%と合わせると、合計で99.6%と非常に高い比率を示している。





## 8 その他

### (1) 修学旅行の受入状況

北海道への修学旅行の受入実績は、2020年度は小中学校・高校・その他の合計で前年度比70.3%減の235校、人数は前年度比69.3%減の3万9,110人となり、新型コロナウイルス感染症の流行、拡大による影響で、修学旅行の中止・延期が相次ぎ、学校数、人数ともに大きく減少した。



### (2) 宿泊業の状況

北海道で旅館業法の許可を受けているホテル・旅館、簡易宿所は、2020年度末現在で5,348施設、定員は、34万1,321人となっており、前年度と比較すると、施設数は2.1%増、定員数は1.2%増となっている。

なお、2018年6月15日から住宅宿泊事業法が施行され、住宅宿泊事業(民泊)の届出住宅数は、2,242件(札幌市所管分を含む)となっており、前年度比23.4%減となっている。

**図表 8-2 宿泊施設数と定員数の推移**

(単位:軒、人)

区 分		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	20年度/19年度
ホテル・旅館	施設数	2,964	2,936	2,897	2,868	2,863	2,877	100.5%
	定 員	276,170	278,740	276,333	285,845	293,994	297,999	101.4%
うち都市部	施設数	828	825	811	812	869	901	103.7%
	定 員	119,107	121,280	123,130	128,679	137,555	142,554	103.6%
簡易宿所	施設数	1,770	1,894	2,007	2,178	2,375	2,471	104.0%
	定 員	34,636	37,028	39,233	40,232	43,140	43,322	100.4%
うち都市部	施設数	206	229	268	340	391	393	100.5%
	定 員	6,232	7,095	8,194	9,168	10,586	10,474	98.9%
合 計	施設数	4,734	4,830	4,904	5,046	5,238	5,348	102.1%
	定 員	310,806	315,768	315,566	326,077	337,134	341,321	101.2%
うち都市部	施設数	1,034	1,054	1,079	1,152	1,260	1,294	102.7%
	定 員	125,339	128,375	131,324	137,847	148,141	153,028	103.3%
民 泊	施設数	-	-	-	1,968	2,926	2,242	76.6%
	うち札幌市	-	-	-	1,561	2,307	1,643	71.2%

※1 都市部：札幌市、小樽市、函館市、旭川市、網走市、帯広市、釧路市の7市

2 各年度、3月末現在

【北海道保健福祉部健康安全局食品衛生課・経済部観光局観光振興課】

### (3) 旅行業の状況

旅行業法に基づき、北海道内に主たる営業所がある旅行業者の登録数は、2020年度末現在、521件となっており、前年度比4.4%増加している。旅行サービス手配業が2018年1月から新設されており、登録数は増加傾向となっている。

図表 8-3 道内に主たる営業所のある旅行業者

登録区分	登録行政庁	業務の範囲	2018年度	2019年度	2020年度
第1種	観光庁長官	・ 海外・国内の募集型企画旅行 ・ 海外・国内の受注型企画旅行 ・ 手配旅行 ・ 受託契約に基づく代理販売	20	19	17
第2種	北海道知事	・ 国内の募集型企画旅行 ・ 海外・国内の受注型企画旅行 ・ 手配旅行 ・ 受託契約に基づく代理販売	122	131	129
第3種	北海道知事	・ 国内（区域限定）の募集型企画旅行 ・ 海外・国内の受注型企画旅行 ・ 手配旅行 ・ 受託契約に基づく代理販売	155	161	161
地域限定	北海道知事	・ 国内（区域限定）の募集型企画旅行 ・ 国内（区域限定）の受注型企画旅行 ・ 国内（区域限定）の手配旅行 ・ 受託契約に基づく代理販売	14	17	21
代理業	北海道知事	・ 受託契約に基づく代理販売	33	31	29
旅行サービス手配業	北海道知事	・ 旅行業者のため、運送サービスなどの媒介など	69	140	164
計			413	499	521

※ 各年度、3月末現在

旅行サービス手配業は、2018年1月から施行。

【国土交通省北海道運輸局・北海道経済部観光局観光振興課】

### (4) 貸切バスの状況

北海道における貸切バス（観光バス）の事業実績について、2020年度は、業者数、走行キロ、輸送人員、車両数ともに前年と比較して減少している。

図表 8-4 北海道での国際会議開催状況

（単位：台・千回・千人）

年 度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	19年度/18年度
業 者 数	263	264	258	261	262	255	238	226	95.0%
車 両 数	2,757	2,888	3,003	3,133	3,288	3,271	3,176	2,974	93.6%
走 行 キ ロ	103,515	110,570	105,468	104,379	103,954	100,378	95,086	83,379	87.7%
輸 送 人 員	16,169	18,036	17,443	16,505	16,058	13,603	14,159	12,918	91.2%

【国土交通省北海道運輸局】

## (5) 道内DMOの状況

道内の「登録DMO」及び「候補DMO」登録数は、2021年12月末現在、25法人となっており、内訳としては、「登録DMO」では「広域連携」1法人、「地域連携」7法人、「地域」7法人、「候補DMO」では「地域連携」2法人、「地域」8法人、合計25法人となっている。

図表 8-5 「登録DMO」及び「候補DMO」の登録状況一覧

令和3年12月末現在

申請区分	登録DMO			候補DMO			合計	
	うち道内			うち道内			うち道内	
広域連携	10	1	(公社)北海道観光振興機構	0	0		10	1
地域連携	92	7	(一社)ふらの観光協会 (一社)釧路観光コンベンション協会 (一社)大雪カムイミンタラDMO (一社)千歳観光連盟 (一社)ニセコプロモーションボード (一社)ひがし北海道自然美への道DMO (株)デスティネーション十勝	26	2	平取町観光協会 (一社)ノース・シティDMO	118	9
地 域	96	7	(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構 十勝川温泉旅館協同組合 (一社)岩見沢市観光協会 (一財)丘のまちびえい活性化協会 大雪山ツアーズ(株) (一社)倶知安観光協会 (一社)網走市観光協会	71	8	(一社)摩周湖観光協会 (一社)しりうち観光推進機構 (株)karch (一社)白老観光協会 (一社)北海道江差観光みらい機構 (一社)噴火湾とようら観光協会 (一社)赤井川村国際リゾート推進協会 (一社)小樽観光協会	167	15
合計	198	15		97	10		295	25

### ※「登録DMO」及び「候補DMO」

登録希望者は、観光地域づくり法人形成・確立計画を作成し、観光庁にて「候補DMO」登録申請を行う。その後、「候補DMO」から事業報告書等を提出し、観光庁から認められた場合は、「登録DMO」として改めて登録される。

- ・ 広域連携：都道府県にまたがる区域を一体とした観光を対象としているもの。
- ・ 地域連携：複数の自治体にまたがる区域を一体とした観光地域を対象としているもの。
- ・ 地 域：基礎自治体である単独市町村の区域を一体とした観光地域を対象としているもの。

【北海道経済部観光局観光振興課】

## (6) 国際会議の開催状況

北海道で開催された国際会議の実績は、2020年度は3件となっており、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行、拡大の影響により外国からの渡航制限措置や社会的な人と人との接触への大規模な自粛要請がなされたことから、開催件数は前年度比98.8%減、参加者総数は99.5%減と大きく減少した。

図表 8-6 北海道での国際会議開催状況

(単位:件、人)

区 分		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
開 催 件 数	総 数	114	125	119	116	115	3
	参 加 者 数						
	総 数	58,615	66,308	54,111	61,501	53,622	252
	うち外国人	8,623	5,544	8,339	7,000	9,069	79

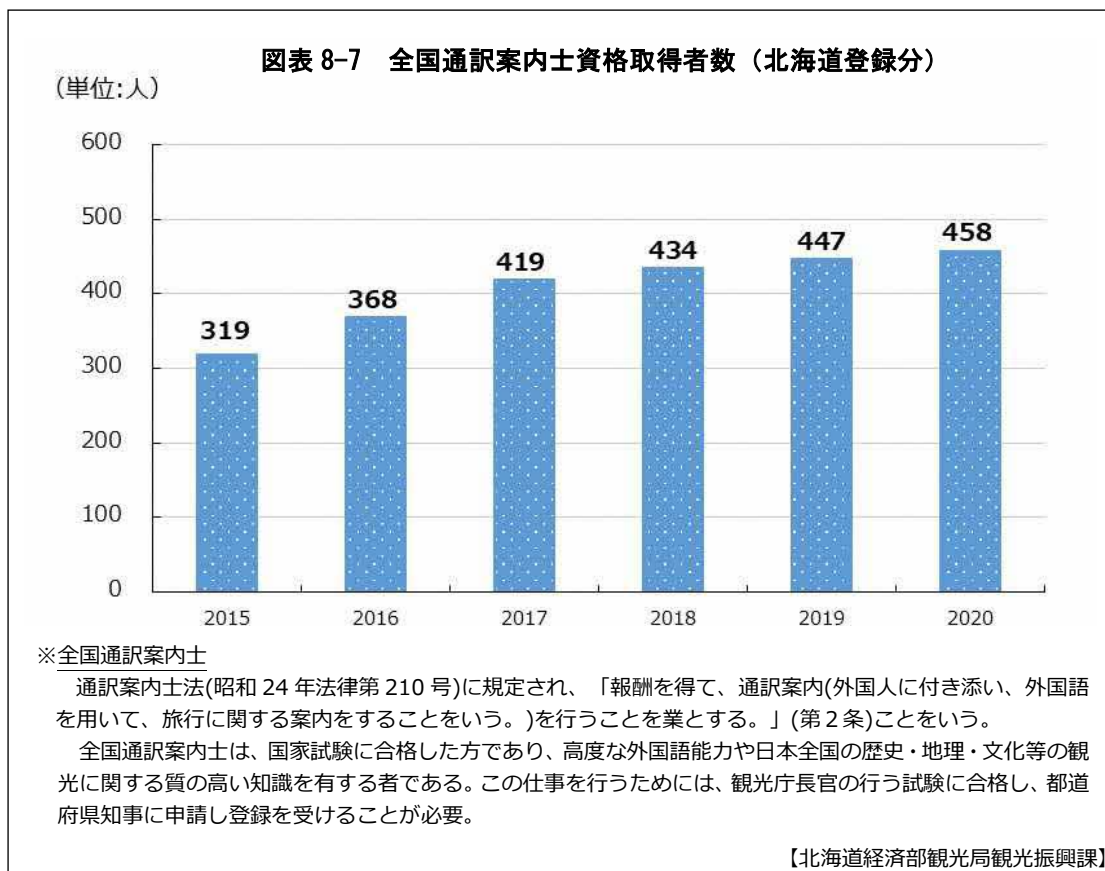
※以下の①～④を全て満たすものを「国際会議」とする。

- ①主催者：「国際機関・国際団体(各国支部含む)又は「国家機関・国内団体」  
(各々の定義が明確ではないため、「公共色を帯びていない民間企業」以外は全て。)
- ②参加者総数：50名以上
- ③参加国数：日本を含む3居住国・地域以上
- ④開催期間：1日以上

【日本政府観光局(JNTO)】

### (7) 全国通訳案内士（北海道登録分）資格取得者数の状況

全国通訳案内士資格取得者数（北海道登録分）は、2020年度末現在、458人であり、資格取得者数の増加傾向が続いている。



### (8) 北海道アウトドア資格制度に係る資格取得者数の状況

北海道アウトドア資格制度に係る資格取得者数については、2020年度末現在500人、優良事業者数は29件、マスターガイド資格取得者数は33人であり、優良事業者数においては、増加傾向が続いている。

**図表 8-8 北海道アウトドア資格制度に係る資格取得者の状況** (単位:件、人)

区 分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
アウトドアガイド資格取得者数	508	484	488	512	500
優 良 事 業 者 数	16	21	24	26	29
マスターガイド資格取得者数	36	38	38	35	33

※アウトドアガイド資格

山岳(夏山・冬山)、自然、カヌー、ラフティング、トレイルライディング5つのアウトドア分野のガイドのプロとして北海道知事が認定するガイド。

※優良事業者

アウトドア事業者が、ガイド資格取得者の適正な人員配置、安全対策、備品の整備等、一定の要件を満たしている場合、「北海道アウトドア優良事業者」として、北海道知事が認定する事業者。

※マスターガイド資格

技能、経験及び知識に優れ、後進の指導・育成や地域社会に貢献している者で、かつ、当該分野のガイド等から高い信頼や評価が得られている者を「北海道マスターガイド」として北海道知事が認定するガイド。

【北海道経済部観光局観光振興課】



参 考 资 料

●主な観光資源（自然公園）

区分	公園名	概要
国立公園	阿寒摩周国立公園	昭和9年指定。屈斜路湖・阿寒湖・摩周湖などの雄大なカルデラ湖を中心に、雄阿寒岳・雌阿寒岳などがそびえ、森と湖と火山のおりなす北方的な原始景観を誇る。世界一といわれるほどの透明度を誇る摩周湖は神秘的な湖といわれ、また、ラムサール条約に登録されている阿寒湖のマリモは国内で唯一の生育地として特別天然記念物に指定されている。 平成29年8月、「阿寒国立公園」から名称変更され、神の子池などを含む区域に拡張された。
	大雪山国立公園	昭和9年指定。北海道の最高峰・旭岳(2,290m)を主峰とする大雪連峰及び十勝連峰・石狩山群などを含む北海道の屋根ともいわれる山岳公園で、わが国最大の面積を誇る。柱状節理の断崖がそそり立つ層雲峡や天然湖である然別湖などすぐれた景勝地が多く、温泉も各地に点在している。
	支笏洞爺国立公園	昭和24年指定。支笏湖・洞爺湖の2大カルデラをはじめ、現在も活動中である有珠山・樽前山、美しい円錐形の山容で蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山、登別地獄谷をはじめ各所で湧出する温泉など、火山によって生じる様々な地形や現象に身近にふれることができる。新千歳空港や札幌、苫小牧、室蘭などの都市からも近いことから、道内で一番利用者が多い。
	知床国立公園	昭和39年指定。北海道の東北端、オホーツク海に向かって細長く伸びる知床半島は、日本に残された最後の原生地帯ともいわれ、険しい連峰と奥深い原生林、海蝕崖による豪壮な海岸風景などの景観と、海岸・草原・森林・河川・湖沼・高山などのさまざまな環境の中に原生的で多様な生態系が一地域にまとまっているのが特徴。
	利尻礼文サロベツ国立公園	昭和49年指定。日本最北に位置する自然公園で、利尻富士と呼ばれる美しい利尻山を擁する利尻島、高山植物の宝庫・礼文島、砂丘列の発達した抜海・稚内内海岸、サロベツ川流域に形成されるラムサール条約に登録されている広大なサロベツ原野など変化に富む景観を誇り、また、国内有数の渡り鳥の中継地としても知られている。
	釧路湿原国立公園	昭和62年指定。市街地に接して広がる湿原を主体とした世界でもまれな公園。その大部分はコン草原とハンノキ林などからなる低層湿原で、蛇行する原始河川などとあまって広大な水平的景観を呈している。特別天然記念物のタンチョウなど貴重な動植物の生息・生育地でもあり、湿原の主要部は「ラムサール条約」の登録湿地に指定され、国際的にも高く評価されている。
国定公園	網走国定公園	昭和33年指定。網走を中心とするオホーツク海岸とサロマ湖・能取湖・網走湖・濤沸湖・藻琴湖などの7つの海跡湖からなっており、起伏の少ない平地風景が特色。海岸線の砂丘に広がる原生花園や冬のオホーツク海の流水、春秋の渡り鳥など季節ごとに特徴的な景観を呈している。なお、濤沸湖はラムサール条約の登録湿地になっている。
	大沼国定公園	昭和33年指定。北海道の玄関・函館市の北方に位置し、駒ヶ岳を中心にして大沼などの湖沼を含み、北海道には珍しい繊細な箱庭的風景が特色。大沼・小沼・専葉沼の3湖は駒ヶ岳の噴火によって生まれた湖で、大沼は駒ヶ岳を背景として大小百数十の小島を浮かべ、「湖の松島」ともいわれる美しい風景を展開している。
	ニセコ積丹小樽海岸国定公園	昭和38年指定。1,000m級の山々がそびえるニセコ連峰と雷電海岸、積丹半島から小樽に至る海岸を含む海陸にわたる公園で、ニセコアンズプリ・チセズプリ・目国内岳などのすぐれた山岳景観と、海蝕崖の連続する豪壮な海岸風景が特色。また、道内の公園で唯一、海中公園地区が指定されている。
	日高山脈襟裳国定公園	昭和56年指定。北海道中央南部を南北約150kmにわたって走る峻険かつ自然性の高い日高山脈を中心に、その山系が南に伸びて太平洋に没する襟裳岬の海岸景観などからなる、わが国最大の国定公園。アポイ岳は特異な地質による固有植物が多く、標高が低いにもかかわらず高山植物の宝庫といわれている。
	暑寒別天売焼尻国定公園	平成2年指定。暑寒別岳を主峰とする山岳・渓谷・山地型湿原と雄冬岬・送毛・濃層の海蝕海岸の地域及び日本海に浮かぶ天売・焼尻両島の地域からなる、自然性の高い変化に富んだ景観が特色。なお、暑寒別岳の東側斜面に広がる両竜沼湿原は、「ラムサール条約」の登録湿地に指定されている。
	厚岸霧多布昆布森国定公園	令和3年指定。道内での新たな国定公園の指定は、平成2年の暑寒別天売焼尻国定公園の指定以来約30年ぶり。別寒辺牛湿原と霧多布湿原の2つの大きな湿原などからなる公園で、霧多布湿原は泥炭形成植物群落として国の天然記念物に指定されており、厚岸湖とともに「ラムサール条約」の登録湿地にも指定されている。
道立自然公園	富良野芦別道立自然公園	昭和30年指定。北海道中央部の夕張山系を中心に、周辺に点在する桂沢湖・シューパロ湖・野花南湖などの湖沼を主な区域とし、秀麗な山岳と森閑とした湖沼を特徴とする北国らしい景観を誇る。ユウバリソウやユウバリコザクラなどの固有種をはじめとする夕張岳の高山植物群落は、特異な地質構造とともに国の天然記念物に指定されている。
	檜山道立自然公園	昭和35年指定。渡島半島西海岸沿いに点在する地域と奥尻島全域からなる公園で、日本海の強風と波浪などによって形成された海蝕崖と海岸段丘が連続し、勇壮な岩石海岸地形となっている。また、夷王山や鶴島地区に代表されるように、北海道の文化の黎明期に造られた社寺・城跡・墳墓などが点在し、自然と文化が共存する北海道ではまれな景観を有している。
	恵山道立自然公園	昭和36年指定。渡島半島の東南海岸部に位置する公園で、雄大な鐘状火山である恵山と亀田半島の最高峰である横津岳を中心に高山植物群落、太平洋と津軽海峡の波浪を受けて形成された海蝕崖や奇岩など、変化に富んだ景観を鑑賞できるのが特徴。また、火山・海岸・渓谷と異なった地形にそれぞれ利用拠点となる温泉地を有し、保養・自然探勝・登山など多目的な公園利用がなされている。
	野付風蓮道立自然公園	昭和37年指定。雄大な根釧台地の水平景観を背景とし、ラムサール条約に登録されている野付半島・風蓮湖を中心に、海跡湖・砂丘やそれを取りまく森林・湿原などからなる道東らしい風景が特色。海岸湿原・湖沼群には湿生植物・野鳥が多数生育・生息しており、植生・野鳥観察のために訪れる人も多数見られる。
	松前矢越道立自然公園	昭和43年指定。渡島半島西南部の海岸地域と渡島大島・小島の二つの離島からなる公園で、切り立った海蝕崖と岩礁・奇岩・海蝕洞などからなる荒々しい海岸風景は、崖上に生育するツツジ・シヤクナゲなどの植物に彩られ、すぐれた景観を誇っている。また、大島・小島は海鳥の繁殖地で、国の天然記念物に指定されている。
	北オホーツク道立自然公園	昭和43年指定。北海道北部のオホーツク海に沿った公園で、クッチャロ湖・モケウニ沼などの天然湖沼が点在し、その周辺の湿原や海岸砂丘に広がるベニヤ原生花園など、広々とした北方的景観が特徴。また、コハクチョウなどの水鳥類の大規模な飛来地となっているクッチャロ湖は、「ラムサール条約」の登録湿地として指定されている。
	道立自然公園野幌森林公園	昭和43年指定。大都市近郊としてはまれな大面積の平地林からなる。比較的よく残された天然林や草地・小川・池など多様な環境がそろうているため、様々な野鳥・動物・昆虫・草花など四季折々の変化に富んだ自然を楽しむことができる。また、公園の一部は北海道開拓の歴史を記念する地区として指定され、百年記念塔・開拓記念館・開拓の村などの施設が設置されている。
	狩場茂津多道立自然公園	昭和47年指定。道南の最高峰・狩場山を中心とする山岳地域と日本海沿岸の海蝕海岸からなる公園で、山間部には滝・溪流・瀨などが点在し、山麓部に広がる原野と周辺の森林が調和した神秘的で美しい景観をつくりあげている。また、海岸部は、激しい波浪により形成された急峻な海蝕崖・岩礁などにより、変化に富んだ景観となっている。
	朱鞠内道立自然公園	昭和49年指定。道北内陸部に位置する日本最大の人造湖・朱鞠内湖を中心とした公園で、日本最寒の地としても知られている。針広混交林からなる鬱蒼とした森林に囲まれた朱鞠内湖と宇津内湖は、複雑な入江と大小の島々を有し、もやにけむる湖面や湖岸に点在する立ち枯れた古木などが幽玄な雰囲気をもたせ、天然の湖をしのぐほどの原始的で神秘的な景観が特徴。
	天塩岳道立自然公園	昭和53年指定。標高1,558mの天塩岳を中心とする公園です。天塩岳・渚滑岳・ウエンシリ岳の山頂から山腹にかけて広がる区域一帯は人為的な影響が少なく、山稜地帯の高山植物群落や狭隘な渓谷などは、特に原始性に富んだ地域となっている。また、野生動物も数多く生息しており、登山や自然探勝の場として利用されている。
斜里岳道立自然公園	昭和55年指定。円錐状の美しい火山である斜里岳の山頂部から山腹にかけての一角を区域とする。斜里岳は地域を代表するすぐれた山岳景観を有し、豊富な高山植物群落やユキウサギ・エゾリス・エゾモンガなどの小型の哺乳類のほかに、ヒグマやエゾシカなども多く生息するなど、動植物の宝庫ともいえる原始性豊かな自然を誇っている。	

【北海道環境生活部環境局自然環境課、環境省北海道地方環境事務所】

●主な観光資源（ラムサール条約登録湿地）

名称	所在地	概要
釧路湿原	釧路市、釧路町、 標茶町、鶴居村	昭和55年登録。面積7,863ha。高層湿原などの複合型の湿地、河川、湖沼。ヨシ・スゲ湿原、ミズゴケ湿原が発達する。タンチョウをはじめ、シマフクロウ、オジロワシ、オオワシ等の大型鳥類、ハクチョウ、ガンカモ類、その他の野鳥などが生息する。
クッチャロ湖	浜頓別町	平成元年登録。面積1,607ha。低層湿原、潟湖干潟のある汽水湖沼。周囲27km、海岸砂丘地で海と隔てられたオホーツク海岸線最大の海跡湖。冬季、シベリアから南下するハクチョウ類、ガンカモ類の最初の渡来地。
ウトナイ湖	苫小牧市	平成3年登録。面積510ha。低層湿原、湖沼、河川。太平洋に面する勇払原野に位置し、周囲17kmの淡水・海跡湖。湖岸にヨシ・スゲ・マコモ・フトイ等の挺水植物群が分布し、湖岸を落葉広葉樹が占める。渡り鳥のわが国有数の中継地で、ハクチョウ類、ガンカモ類が数千羽飛来し、確認されている鳥類は250種以上。
霧多布湿原	浜中町	平成5年登録。面積2,504ha。高層湿原などの複合型の湿地、河川、湖沼、藻場、汽水湖沼。ミズゴケ泥炭地を基盤とする高層湿原と沼。オオハクチョウ、ヒシクイ等が渡来し、タンチョウの繁殖地も分布。
厚岸湖・別寒辺牛湿原	厚岸町	平成5年登録。面積5,277ha。汽水湖沼、藻場、高層湿原などの複合型湿地、河川。厚岸湖とそれに流入する別寒辺牛川周辺のヨシ・スゲを中心とする低層湿原。ガンカモ、ハクチョウ類が渡来し、タンチョウの繁殖地も分布。
宮島沼	美唄市	平成14年登録。面積41ha。湖沼。石狩川の河跡湖沼群の一部で、見通しの良い浅い淡水湖沼の周辺には水田地帯が広がる。シベリア等北半球の繁殖地と日本国内の越冬地を往復するガンカモ類、ハクチョウ類の中継地として国際的に重要。特にマガンの渡来数は5万羽を超え、我が国で越冬するマガンのほとんどが宮島沼を中継地として利用。
雨竜沼湿原	雨竜町	平成17年登録。面積624ha。高層湿原。山間部に位置する山地型湿原であり、冬期に長期間堆積する積雪の融雪水や降水が池塘に貯留され、この水が湿原を涵養し、特異な湿原環境を維持している。我が国でも有数の面積規模を誇り、水生、湿原性、高山性の植物群が混交するなど自然性の高い優れた景観を呈している。
サロベツ原野	豊富町、幌延町	平成17年登録。面積2,560ha。高層湿原などの複合型の湿地、湖沼、河川。平地の湿原としてはきわめて発達した高層湿原であり、我が国で最大規模の面積を持つ。湖沼には多種の水生物植物群落分布する。また、ベンケ沼及びパンケ沼は水鳥の繁殖地、特に春秋のオオヒシクイやコハクチョウの東アジア地域個体群にとって重要な中継地となっている。
濤沸湖	網走市、小清水町	平成17年登録。面積900ha。低層湿原及び潟湖干潟のある汽水湖沼、藻場。砂嘴の発達で形成された海跡湖であり、一部海ともつながっている。そのため、藻場や塩性湿地も発達している。北海道では最大級の渡り鳥の中継地であり、ガンカモ類は毎年約6万羽以上の渡来が確認されているほか、オジロワシ・オオワシの越冬も確認されている。
阿寒湖	釧路市	平成17年登録。面積1,318ha。湖沼、河川。火山活動によってできたカルデラ湖。特別天然記念物に指定されているマリモが生育するほか、魚類ではイトウやヤチウグイ、貝類ではカワシンジュガイが生息する。
風蓮湖・春国岱	根室市、別海町	平成17年登録。面積6,139ha。低層湿原などの複合型の湿地、河川、湖沼、藻場。風蓮湖とオホーツク海に面した砂嘴の発達した海岸砂丘。シギ・チドリ類、オオハクチョウ、ヒシクイ等の渡り鳥の渡来地、中継地として利用され、約280種の鳥類の生息が確認されている。
野付半島・野付湾	別海町、標津町	平成17年登録。面積6,053ha。低層湿原、塩性湿地、藻場。日本最大の約28kmの砂嘴及び砂嘴に寄って形成された湾部を有する。湾内は、広大な干潟とアマモ場が形成され、甲殻類、貝類、魚類、ゴカイ類等が多く生息している。渡り鳥の中継地として、春秋には毎年2万羽以上が渡来する。
大沼	七飯町	平成24年登録。面積1,236ha。淡水湖、堰止湖群。北海道の南西部にある渡島半島のほぼ中央部に位置している。大沼、小沼、蓴菜沼等の湖で構成され、12月から3月まで全面結氷する。活火山の駒ヶ岳、砂原岳等の山々に囲まれ、多くの溶岩小丘が湖内にある変化に富んだ景観等から、1958年に北海道で最初の国定公園に指定された。

【北海道環境生活部環境局生物多様性保全課】

●主な観光資源（世界遺産、世界ジオパーク）

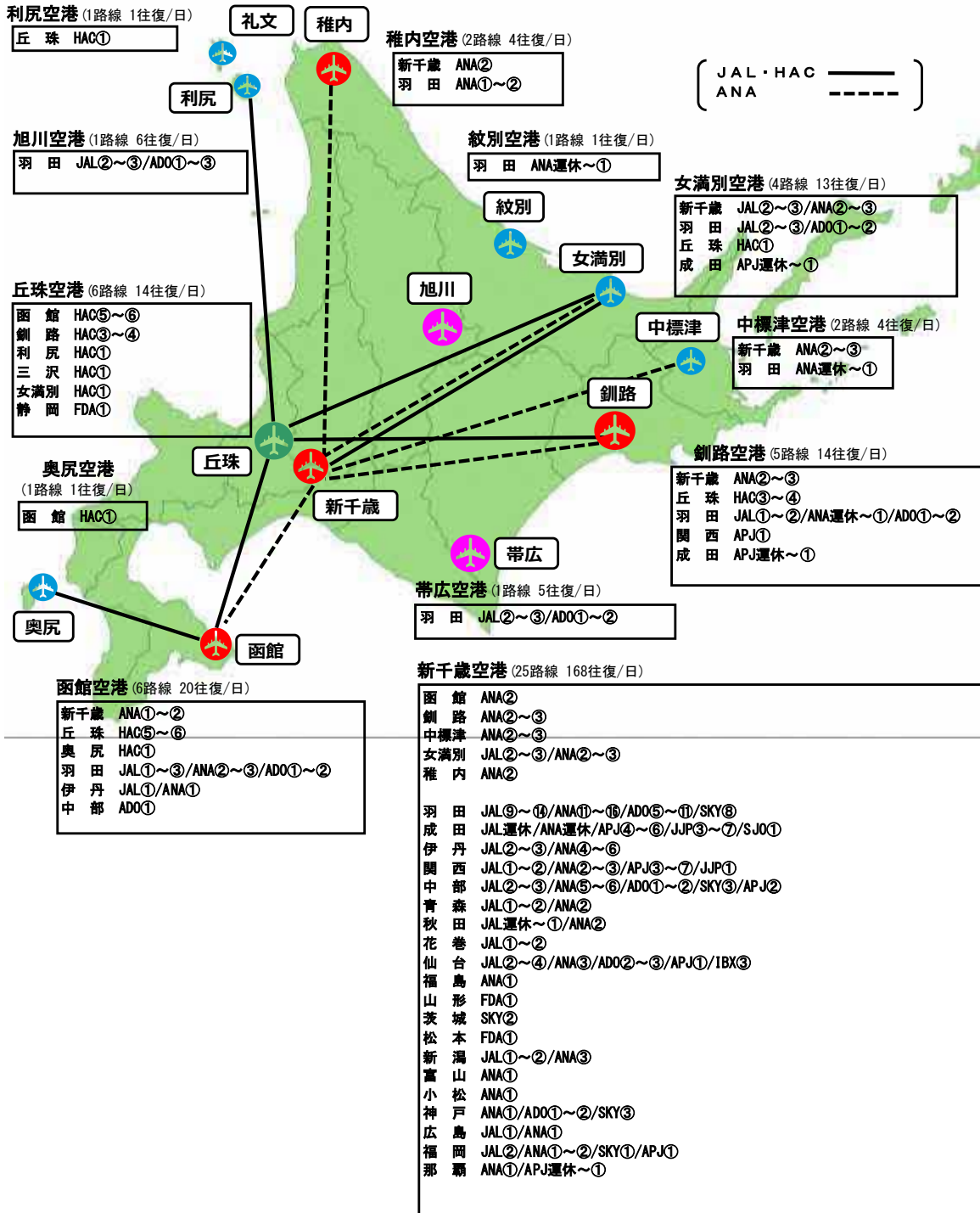
名称	登録時期	概要
知床世界自然遺産	平成17年7月	海と川と森が一体となった生態系の宝庫。知床半島は北海道の北東部に位置している。半島の中央から先端の知床岬、周囲の海域を含むこの地域は、流水が漂流する北半球の最も緯度の低い場所で、海と陸が影響しあう自然環境の仕組みが形成されている。シトコスミレなどの絶滅危惧種を含む植物のほか、希少な海鳥やトドなどの海洋哺乳類が生息している。
洞爺湖有珠山ジオパーク	平成21年8月	糸魚川ジオパーク、島原半島ジオパークとともに、日本で初めて「世界ジオパーク」として登録された。洞爺湖・有珠山周辺は、活火山による大地の移り変わりがふんだんに見られる貴重な場所であり、洞爺カルデラや有珠山などに代表される地質遺産や、雄大で美しい自然遺産、さらに縄文遺跡などの歴史遺産など、多くの見どころがある。
アポイ岳ジオパーク	平成27年9月	国内で8例目に登録された。日高東部のまちは様似町は、世界でも類を見ない新鮮で多彩なかんらん岩から成る山々や渓谷、特殊な土壌条件などによって育まれた固有の高山植物群落、そして、海岸の特殊な地形が天然の良港となり古くから交易の拠点として栄えてきた歴史と文化を学び楽しむことができる。
北海道・北東北の縄文遺跡群	令和3年7月	世界遺産としては、自然遺産の「知床」に次いで2番目、文化遺産としては初めて登録された。北海道、青森県、岩手県及び秋田県は、世界自然遺産「白神山地」や「知床」、美しい自然が今なお色濃く残る、緑豊かなところであり、北海道・北東北の縄文遺跡群は、この豊かな自然の恵みを受けながら1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した縄文時代の人々の生活と精神文化を今に伝える貴重な文化遺産であり、17の遺跡で構成されている。

●主な観光資源（北海道遺産）

名 称	所 在 地	名 称	所 在 地
稚内港北防波堤ドーム	稚内市	旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群	上士幌町
宗谷丘陵の周水河地形	稚内市	霧多布湿原	浜中町
天塩川	流域市町村	摩周湖	弟子屈町
留萌のニシン街道(佐賀番屋、旧花田家番屋、岡田家と生活文化)	留萌地域	根釧台地の格子状防風林	中標津町など
増毛の歴史的建物群(駅前の歴史的建物群と増毛小学校)	増毛町	野付半島と打瀬舟	別海町、標津町
旭橋	旭川市	ワッカノ小清水原生花園	北見市、小清水町
土の博物館「土の館」	上富良野町	ピアソン記念館	北見市
雨竜沼湿原	雨竜町	森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」	遠軽町
北海幹線用水路	空知地域	オホーツク沿岸の古代遺跡群	網走地域
空知の炭鉱関連施設と生活文化	空知地域	流水とガリンコ号	紋別市など
石狩川	流域市町村	利尻島の漁業遺跡群と生活文化	利尻島
江別のれんが	江別市	旭川家具	旭川市
北海道大学 札幌農学校第2農場	札幌市	三浦綾子記念文学館と外国樹種見本林	旭川市
開拓使時代の洋風建築(時計台、豊平館、清華亭など)	札幌市	増毛山道と濃屋山道	増毛町、石狩市
札幌苗穂地区の工場・記念館群	札幌市	北海道の集治監(樺戸、空知、釧路、網走、十勝)	月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市
小樽みなとと防波堤	小樽市	小樽の鉄道遺産	小樽市
ニッカウキスキー余市蒸留所	余市町	大友亀太郎の事績と大友堀遺構	札幌市
積丹半島と神威岬	積丹半島	パンフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)	札幌市
京極のふきだし湧水	京極町	札幌軟石	札幌市
スキーとニセコ連峰	ニセコ地域	蝦夷三官寺(有珠善光寺、様似等澗院、厚岸国泰寺)	伊達市、様似町、厚岸町
北限のブナ林	黒松内町	しかべ間歌泉	鹿部町
昭和新山国際雪合戦大会	壮瞥町	むかわ町穂別の古生物化石群	むかわ町
登別温泉地獄谷	登別市	北海道の簡易軌道	鶴居村など
内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群	函館市、伊達市など	屯田兵村と兵屋	北海道各地
姥神大神宮渡御祭と江差追分	江差町	北海道の馬文化(ばん馬、日高のサラブレッドなど)	北海道各地
上ノ国の中世の館(たて)	上ノ国町	アイヌ語地名	北海道各地
福山(松前)城と寺町	松前町	アイヌ文様	北海道各地
五稜郭と箱館戦争の遺構	函館市など	アイヌ口承文芸	北海道各地
函館山と砲台跡	函館市	サケの文化	北海道各地
函館西部地区の街並み	函館市	北海道のラーメン	北海道各地
路面電車	函館市、札幌市	ジンギスカン	北海道各地
静内二十間道路の桜並木	新ひだか町	千島桜	北海道各地
モール温泉	音更町など	松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡	北海道各地
螺湾(らわん)ブキ	足寄町		

【北海道総合政策部地域創生局地域政策課】

# 北海道の国内航空路線 (令和3年4月1日～30日)



※ 往復便数は、路線毎に1日の最大便数で整理  
 ※ JAL～日本航空、ANA～全日本空輸、ADO～エア・ドゥ、SKY～スカイマークエアライン、FDA～フジドリームエアラインズ、HAC～北海道エアシステム、APJ～ピーチエアラインズ、IBX～アイベックスエアラインズ、JJP～ジェットスター・ジャパン、SJO～春秋航空日本



# ●航空路線別輸送実績

(道内主要空港－東京、成田)

(人・席)

	東京、成田－札幌			東京－釧路			東京、成田－函館		
	旅客数	座席数	座席利用率	旅客数	座席数	座席利用率	旅客数	座席数	座席利用率
平成13年度	9,367,334	13,843,828	67.7%	552,078	899,046	61.4%	1,496,330	2,310,009	64.8%
平成14年度	9,610,996	14,478,653	66.4%	583,626	934,697	62.4%	1,597,008	2,590,489	61.6%
平成15年度	9,254,968	14,400,944	64.3%	558,281	889,647	62.8%	1,493,042	2,507,370	59.5%
平成16年度	9,110,058	13,788,037	66.1%	561,653	940,418	59.7%	1,365,129	2,044,501	66.8%
平成17年度	9,116,492	13,869,602	65.7%	577,102	945,328	61.0%	1,289,554	1,930,505	66.8%
平成18年度	9,804,267	14,756,435	66.4%	570,886	924,825	61.7%	1,248,703	1,768,172	70.6%
平成19年度	9,721,714	14,404,657	67.5%	541,975	850,557	63.7%	1,182,096	1,741,606	67.9%
平成20年度	9,458,392	14,116,933	67.0%	502,597	842,211	59.7%	1,115,631	1,645,133	67.8%
平成21年度	9,037,102	13,930,650	64.9%	483,155	798,454	60.5%	1,051,949	1,528,747	68.8%
平成22年度	8,826,293	13,197,618	66.9%	474,199	712,567	66.5%	1,047,659	1,525,772	68.7%
平成23年度	8,848,038	12,949,838	68.3%	414,233	600,460	69.0%	966,958	1,429,628	67.6%
平成24年度	9,531,395	14,124,781	67.5%	449,776	705,972	63.7%	1,034,678	1,574,393	65.7%
平成25年度	10,130,714	14,605,690	69.4%	474,719	757,419	62.7%	1,095,814	1,605,744	68.2%
平成26年度	10,184,484	14,175,372	71.8%	465,877	705,291	66.1%	1,092,719	1,629,310	67.1%
平成27年度	10,698,621	14,497,755	73.8%	482,256	733,232	65.8%	1,108,582	1,578,776	70.2%
平成28年度	10,683,681	14,232,505	75.1%	491,194	761,654	64.5%	1,055,437	1,571,628	67.2%
平成29年度	10,871,907	14,226,719	76.4%	515,116	751,513	68.5%	1,096,958	1,551,066	70.7%
平成30年度	10,934,759	14,447,881	75.7%	509,452	739,171	68.9%	1,013,493	1,389,592	72.9%
令和元年度	10,626,143	14,319,568	74.2%	492,202	739,317	66.6%	1,023,033	1,442,248	70.9%
令和2年度	3,395,875	6,673,781	50.9%	171,815	369,889	46.5%	355,649	731,974	48.6%

	東京、成田－旭川			東京－女満別			東京－帯広		
	旅客数	座席数	座席利用率	旅客数	座席数	座席利用率	旅客数	座席数	座席利用率
平成13年度	769,605	1,236,837	62.2%	512,488	802,649	63.8%	558,245	842,582	66.3%
平成14年度	804,622	1,253,901	64.2%	528,089	844,228	62.0%	554,744	845,219	65.6%
平成15年度	817,050	1,325,623	61.6%	503,609	852,870	59.0%	517,457	843,812	61.3%
平成16年度	845,268	1,291,603	65.4%	501,286	820,964	61.1%	503,029	842,134	59.7%
平成17年度	888,488	1,345,060	66.1%	505,234	801,783	63.0%	520,026	841,376	61.8%
平成18年度	940,445	1,304,274	72.1%	577,287	1,003,309	57.5%	527,648	823,514	64.1%
平成19年度	908,920	1,284,480	70.8%	501,671	812,841	61.7%	524,672	808,764	64.9%
平成20年度	1,017,974	1,597,611	63.7%	481,551	772,986	62.3%	501,957	819,973	61.2%
平成21年度	935,963	1,431,169	65.4%	460,833	720,736	63.9%	492,872	826,218	59.7%
平成22年度	878,093	1,316,247	66.7%	419,249	589,504	71.1%	470,005	745,172	63.1%
平成23年度	736,905	1,033,640	71.3%	390,512	557,010	70.1%	493,254	782,917	63.0%
平成24年度	849,535	1,316,223	64.5%	417,032	622,026	67.0%	504,467	814,173	62.0%
平成25年度	863,140	1,287,821	67.0%	428,066	617,654	69.3%	525,600	771,836	68.1%
平成26年度	812,653	1,093,716	74.3%	426,322	612,343	69.6%	533,044	822,058	64.8%
平成27年度	836,226	1,223,826	68.3%	452,161	659,956	68.5%	550,652	887,193	62.1%
平成28年度	868,273	1,284,562	67.6%	463,524	681,238	68.0%	566,523	910,066	62.3%
平成29年度	925,878	1,315,535	70.4%	491,350	690,832	71.1%	605,046	925,538	65.4%
平成30年度	942,088	1,312,281	71.8%	495,094	698,401	70.9%	613,258	908,826	67.5%
令和元年度	901,150	1,335,256	67.5%	471,292	691,738	68.1%	588,566	926,690	63.5%
令和2年度	273,689	575,145	47.6%	167,490	374,216	44.8%	188,226	406,685	46.3%

(道内主要空港－大阪・関西・神戸)

(人・席)

	大阪・関西・神戸－札幌			大阪・関西－釧路			大阪・関西－函館		
	旅客数	座席数	座席利用率	旅客数	座席数	座席利用率	旅客数	座席数	座席利用率
平成13年度	2,802,456	3,930,647	71.3%	72,391	105,893	68.4%	361,742	564,696	64.1%
平成14年度	2,877,920	4,216,637	68.3%	67,874	106,572	63.7%	304,096	482,081	63.1%
平成15年度	2,566,375	3,895,492	65.9%	68,177	124,805	54.6%	273,995	429,100	63.9%
平成16年度	2,378,093	3,586,992	66.3%	71,219	124,874	57.0%	249,314	350,628	71.1%
平成17年度	2,323,207	3,256,704	71.3%	40,627	61,697	65.8%	221,886	313,556	70.8%
平成18年度	2,371,382	3,249,216	73.0%	33,846	50,582	66.9%	234,563	347,738	67.5%
平成19年度	2,426,408	3,660,385	66.3%	37,183	55,877	66.5%	215,736	317,454	68.0%
平成20年度	2,260,435	3,256,251	69.4%	34,518	54,706	63.1%	140,039	180,748	77.5%
平成21年度	2,096,531	2,933,602	71.5%	14,379	28,740	50.0%	72,124	87,980	82.0%
平成22年度	2,039,559	3,012,439	67.7%	10,665	15,017	71.0%	87,381	124,098	70.4%
平成23年度	2,017,693	3,051,279	66.1%	11,251	15,918	70.7%	84,993	133,474	63.7%
平成24年度	2,438,550	3,793,564	64.3%	10,337	16,570	62.4%	91,730	174,803	52.5%
平成25年度	2,364,857	3,067,190	77.1%	10,028	16,932	59.2%	114,115	186,415	61.2%
平成26年度	2,505,676	3,270,891	76.6%	8,882	15,604	56.9%	113,365	190,133	59.6%
平成27年度	2,648,171	3,654,551	72.5%	9,405	15,106	62.3%	138,901	241,604	57.5%
平成28年度	2,686,570	3,661,564	73.4%	9,565	15,604	61.3%	134,929	199,406	67.7%
平成29年度	2,853,339	3,774,836	75.6%	8,128	16,102	50.5%	136,045	199,757	68.1%
平成30年度	2,734,512	3,577,898	76.4%	75,946	100,656	75.5%	132,857	194,367	68.4%
令和元年度	2,744,382	3,646,723	75.3%	109,915	135,326	81.2%	137,379	191,653	71.7%
令和2年度	1,019,534	1,974,400	51.6%	48,215	95,102	50.7%	63,493	154,156	41.2%

	大阪・関西－旭川			大阪・関西－女満別			大阪・関西－帯広		
	輸送人員	提供座席数	座席利用率	輸送人員	提供座席数	座席利用率	輸送人員	提供座席数	座席利用率
平成13年度	92,374	135,384	68.2%	118,095	166,861	70.8%	76,402	120,848	63.2%
平成14年度	93,613	143,942	65.0%	107,248	157,973	67.9%	70,417	120,848	58.3%
平成15年度	93,766	145,802	64.3%	163,648	268,505	60.9%	63,647	118,916	53.5%
平成16年度	94,077	137,944	68.2%	124,241	183,741	67.6%	71,378	119,195	59.9%
平成17年度	92,803	136,084	68.2%	137,224	221,259	62.0%	29,010	41,426	70.0%
平成18年度	101,115	135,406	74.7%	141,382	213,830	66.1%	22,414	31,626	70.9%
平成19年度	99,081	138,916	71.3%	127,346	212,017	60.1%	25,258	39,446	64.0%
平成20年度	88,027	130,656	67.4%	108,883	170,178	64.0%	25,602	39,283	65.2%
平成21年度	53,604	78,226	68.5%	22,199	29,461	75.4%	8,124	13,800	58.9%
平成22年度	28,668	42,871	66.9%	19,977	29,280	68.2%	0	0	—
平成23年度	32,251	54,200	59.5%	24,596	37,980	64.8%	0	0	—
平成24年度	50,225	122,856	40.9%	34,074	64,188	53.1%	0	0	—
平成25年度	25,531	48,542	52.6%	27,244	38,535	70.7%	0	0	—
平成26年度	23,872	49,655	48.1%	29,531	46,202	63.9%	0	0	—
平成27年度	18,509	40,833	45.3%	24,666	45,865	53.8%	0	0	—
平成28年度	14,234	29,424	48.4%	18,175	31,478	57.7%	0	0	—
平成29年度	15,634	35,797	43.7%	20,155	31,416	64.2%	0	0	—
平成30年度	7,235	9,240	78.3%	16,364	27,198	60.2%	0	0	—
令和元年度	7,639	9,240	82.7%	19,990	32,754	61.0%	0	0	—
令和2年度	3,666	10,188	36.0%	4,097	6,706	61.1%	0	0	—

【国土交通省 航空輸送統計年報】

●令和3年度地域政策推進事業（地域創生推進事業、地域政策コラボ事業）・観光関連分

(単位:千円)

振興局	事業名	事業期間	事業概要	事業費
空知	オール空知観光資源活用誘客促進事業	R3 ~ 5	炭鉄港、ワインや食、花といった空知地域ならではの地域資源の魅力を発信することで誘客を促進するほか、新型コロナウイルスを踏まえ、サイクルツーリズムやマイクロツーリズムといった「新たな旅のスタイル」を推進し、魅力ある観光地づくりを進める。	3,127
	北海道空知魅力発信事業 【コラボ事業】	R2 ~ 6	「空知」ならではの観光・物産やライフスタイル、生活環境などに関する情報を総合的に発信し、空知地域に対する関心や理解度の向上、首都圏等での知名度向上を図り、人とモノの流れの創出をめざす。	5,801
石狩	「ポストコロナ」いしかり地域戦略推進プロジェクト	R3 ~ 6	高度な都市機能と豊かな自然が融合した石狩管内の特性を活かし、若年層の地元定着や移住・定住などの促進、多様化する観光需要に対応したメニュー開発といった地域の持続的な活性化のための取組について、新型コロナウイルスのもたらす変化を捉え、戦略的に推進する。	9,515
後志	ShiriBeshi路線バス利用促進事業	R3 ~ 5	路線バスの需要拡大と持続的な利用定着を図るため、管内の住民や管外からの観光客に向けて、観光利用等のモデルルートや利用促進動画を作成し、動画視聴者へのキャンペーンも交えながらYouTubeやSNSで周知する。	536
	ShiriBeshi 自然と食を活かしたツーリズム推進事業	R2 ~ 4	グリーンシーズン強化のため、MTB(マウンテンバイク)セミナーの開催や動画を使った情報発信等、後志の自然と食の魅力を活かしたツーリズムを推進し、ウィズコロナにおける観光誘客につなげる。	2,460
胆振	いぶり観光・教育旅行誘致促進事業	H28 ~ R4	ウポポイやジオパーク、縄文遺跡群をはじめとする「いぶり五大遺産」などの地域資源を観光素材として活用し、新型コロナウイルス感染症拡大により落ち込んだ観光需要、地域経済を回復させるとともに、地域資源を教育素材とする教育旅行の誘致を促進し、関係人口、交流人口の増加を図る。	6,726
	いぶり五大遺産等地域資源魅力発信事業 【コラボ事業】	R1 ~ 4	胆振地域への交流人口・関係人口の拡大を図るため、関係市町・団体との連携による、世界的な価値を有する「いぶり五大遺産」「洞爺湖有珠山ジオパーク」「アイヌ文化」「縄文遺跡群」「むかわ竜」「炭鉄港」の魅力発信を通じて、地域創生に向けた取組を推進する。	2,931
日高	7towns.colors HIDAKA観光知名度向上事業	R3 ~ 5	ひだか地域の観光振興における課題である「観光地としての知名度不足」を解消し、交流人口の増加を図るため、管内各町や関係団体等と連携し、地域資源を活用した地域の魅力を体感できる観光メニューの開発や広域的な観光誘客の取組を図るとともに、地域の魅力を道内外に向けて効果的かつ戦略的に発信する。	1,327
	日高山脈襟裳国定公園及びアポイ岳ジオパークの活用促進事業	R2 ~ 4	日高山脈襟裳国定公園の国立公園指定の動きに合わせ、環境保全や利活用を推進するとともに、アポイ岳ジオパークにおけるジオツーリズムの推進などにより、地域の活性化を図る。	1,465
	日高アイヌ文化振興支援事業	R1 ~ 3	アイヌを題材とした小説やマンガ等を通じて、アイヌの人たちの歴史や自然観に基づく生活や文化への関心が高まっていることから、アイヌ文化を活用した体験型ツーリズムの実現に向けて受入体制などの検討・整備を行い、「北海道・日高アイヌ文化」を軸とした地域づくりによる、交流人口と関係人口の増加を目指す。	531
	オールひだか魅力発信推進事業 【コラボ事業】	R1 ~ R3	高規格幹線道路日高自動車道新冠IC開通に向けて、広域的な取組を行い、地域の気運を醸成するとともに、地域資源の活用促進や地域の魅力向上と発信力強化に向け、国や日高管内各町、関係機関等が連携してプロモーション活動などを実施することにより、管内観光入込客数の増加を図る。	5,340
渡島	JOMON渡島ネクストステージ事業2021【重】	R3	「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録を見据え、渡島の様々な地域資源を効果的に活用した取組を展開し、地域活性化及び関係人口の創出等につなげる。	7,000
	「北の縄文」魅力発信・ファン拡大推進パワーアップ事業	R2 ~ 6	世界文化遺産登録を見据える縄文について、地域住民はもとより教育分野をはじめとするステークホルダーへの理解促進・ファン拡大の取組を一層強化することに加え、次世代への継承を仕組み化するため、函館市内の年長児を対象とした啓発活動を展開する。	1,612
	「みなみ北海道まるっと周遊」観光地域づくり強化事業 【コラボ事業】	R2 ~ 6	新型コロナウイルスの影響拡大により打撃を受けた観光需要を喚起するため、感染リスクの低い屋外型体験観光の発信など、新しい生活様式に沿った取組を進め、ウィズコロナ時代の観光振興を行う。	2,672
	訪日外国人向け環境整備・集客プロモーション事業 【コラボ事業】	R2 ~ 6	新型コロナウイルス対策も含めた受入環境の整備や、密となくらい自然環境を生かした周遊ルートの構築等により、来たるべきインバウンド需要の回復に備える。	3,267

振興局	事業名	事業期間	事業概要	事業費
檜山	「食と観光 ひやまの魅力」向上・創出事業	R2 ~ 6	檜山管内のあらゆる地域資源を活用しながら、食と観光に関する人材育成や魅力発信を行うとともに、商品の磨き上げや販路拡大の支援を行い、檜山管内の知名度向上とイメージアップを図り、滞在型観光を促進して観光交流人口の増加につなげる。	3,891
	オール檜山による物産・観光PR連携事業【コラボ事業】	R2 ~ 6	来道外国人やシニア層等をターゲットとし、インバウンドや高齢者を対象とした受入環境を整えるとともに、管内7町と連携しながら物産・観光資源を積極的にPRすることで誘客促進につなげる。	2,573
	ひやまバリアフリーレジャーPR事業	R3 ~ 5	高齢者や障がい者、その家族、友人等をターゲットとし、誰でも障がい(バリア)なく旅行できる受入体制整備を行いつつ、積極的にPRすることで、管内への誘客促進に繋げるとともに、旅行企画会社等へ旅行プランの策定に有益な情報提供を実施する。	670
上川	かみかわツーリズム誘客促進事業	R2 ~ 6	コロナ禍による影響がある中、マイクロツーリズムの高まりや上川北部の冬季の滞在人口を活かし、意見交換会やモニターツアーによる商品造成を行うとともに、プロモーションを通じて上川地域への誘客を図る。	3,810
	「かみかわ新交流時代」における関係・交流人口拡大事業	R2 ~ 6	新型コロナウイルスの拡大によるライフスタイルの変容を捉まえ、移住定住対策や関係人口創出の取組など、地方創生施策を展開する。また、新型コロナウイルス収束後を見据え、旭川空港を活用した来訪の促進に取り組む。	3,212
	おいでよ！天空の園・松山湿原の森プロジェクト	R1 ~ 3	自然環境保全地域かつ日本最北の高層湿原である松山湿原内の木道を補修し、上川北部地域における観光資源の魅力強化を図るとともに、生物多様性教育に資する施設としての利用価値の向上を図る。	1,000
留萌	るもいの魅力発“8”信強化事業～るもいの可能性は∞(無限大)～	R2 ~ 3	「るもいの良いところ」をより多くの方に知っていただくため、食や観光のほか地域で頑張る人にも着目し、SNSをはじめとする各種広報媒体をフル活用した情報発信により、留萌地域の盛り上げを図る。	1,543
	モワ(more)モワ(more)Rumoi！来訪者増加事業	R2 ~ 4	近隣都市である札幌圏を中心に、食や観光の物産展等を開催することにより誘客を促進するとともに、国内外のメディアや旅行会社等に対するプロモーションを行い、観光入込客数増加を図る。	1,794
宗谷	てっぺん宗谷deポストコロナ観光地づくり推進事業【コラボ事業】	R3 ~ 5	自然や歴史・文化など、宗谷の魅力ある観光資源を道内外へ発信するほか、アドベンチャー・ツーリズム型コンテンツの開発やワーケーションの促進など、新たな観光の形を目指す地域や企業を支援し、ポストコロナを意識した観光地づくりを行う。	2,138
	宗谷New Normal促進支援事業【コラボ事業】	R3 ~ 5	宗谷管内の人口減少率が全道平均を上回る中、管内市町村への移住定住促進のため、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりニーズが高まった地方でのテレワークやワーケーション等を踏まえたNew Normalにおいて求められる情報及び魅力発信の取組を、管内市町村とともに一体的に取り組む、宗谷への移住者増加を支援する。	1,970
	宗谷地域公共交通利用促進事業	R3 ~ 5	公共交通の将来の利用者となる子ども達に、鉄道やバスを身近に感じてもらい、大切さや魅力を伝えるため、乗車体験会を開催する。また、稚内空港からの2次交通不足を解消するための実証実験として、空港発で自転車と公共交通機関を組み合わせたモデルルートを設定し、課題の洗い出しや普及に向けたPRを行う。	831
オホーツク	オホーツク観光再生事業	R3 ~ 5	コロナ禍で変わる旅のスタイルに対応し、オホーツク地域外からの交流関係人口の増加、観光産業の振興のため、地域の特性・資源を活かし、管内市町村と連携して戦略的に個人・団体旅行の誘致に取り組むことにより、豊かな自然環境、地域の産業・文化などと調和した観光の確立及び地域の優位性を活かした観光地づくりを推進する。	2,110
	知床世界自然遺産のインバウンドステップアップ事業	R3 ~ 5	近年増加傾向にある知床世界自然遺産地域への外国人旅行者の受入体制の整備ため、情報提供の英語化対応を進めるとともに、地域住民に対して知床の利用ルールを再確認してもらった周知活動を行い、地域一体の共通認識を醸成する。	424
	地域連携推進オホーツク活性化事業【コラボ事業】	R2 ~ 4	持続可能で活力ある地域づくりの実現に向け、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図るため、地域の多様な関係者が連携しながら、新たな地域資源を活用した取組やシームレスな交通サービスの実現に向けた取組を進めるとともに、効果的な情報発信を推進する。	6,613
十勝	とかちの大自然を活かした観光推進事業～日高山脈襟裳国定公園の国立公園昇格に向けた観光推進プロジェクト～	R2 ~ 3	日高山脈襟裳国定公園の国立公園昇格に向けて、十勝・日高管内の市町村を交えたあり方検討や、シンポジウム開催による機運醸成の取組など、自然公園を活かした観光の振興を図る。	456
	とかち“いいね”魅力拡大事業	R3 ~ 5	新型コロナウイルスの影響により観光需要が低迷する中、十勝の認知度向上及び誘客促進に向け、魅力的な観光地づくりに向けた取組や「食」の付加価値向上・ブランド化、十勝産品のPR・販路拡大の取組などを進める。	5,524
	交通モードの利活用により地域の内外をつなぐ交流人口拡大推進事業【推】	R3 ~ 5	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける十勝管内の公共交通の利用状況を把握した上で、①域内間の交流増加(まちづくり)、②域外との交流増加(観光振興、移住定住)に向けた取組を実施することにより、関係・交流人口の増加と北海道十勝地域の活性化を目指す。	12,000
釧路	国定公園化を契機とした新たな人の流れ創出事業【重】	R3 ~ 4	厚岸国立自然公園の国定公園化を契機に、海岸方面への人の流れの創出や、ウィズコロナに対応した旅のスタイルを提案することで、地域活性化を目指す。	7,000
	オールくしろ魅力発信事業【コラボ事業】	R1 ~ 3	くしろ地域の交流人口の拡大を目的に「ウェルカム道東道！！オールくしろ魅力発信協議会」を母体とした、道東自動車道の釧路延伸を契機としたプロモーション等の各種取組を通じて、釧路地域の魅力を発信する。	2,849
根室	持続可能な地域コミュニティづくり推進事業	R2 ~ 4	人口減少社会においても持続可能で活力ある地域コミュニティづくりについて、「ネットワークづくりを通じた地域活性化」、「外国人材の受入環境の向上や多文化共生社会の推進」、「地域同士をシームレスに結ぶ交通ネットワークづくり」の3つの取組を通じ推進する。	661
	新型コロナウイルスを克服するための「ねむろの食と観光」競争力強化事業【コラボ事業】	R3 ~ 5	新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた人々の意識や行動の変化に対応した観光客の受入体制の整備やプロモーション及びねむろの食材の高度加工の支援を行うことにより、地域が一体となって新型コロナウイルスによる影響からのいち早い回復、更なる活性化に取り組む。	6,835

※【重】：地域課題重点推進事業(地域の実情を道政に的確に反映させるため知事が特に重点的に推進すべきと認めた事業)

【北海道総合政策部地域創生局地域戦略課】

※【推】：国の地方創生推進交付金を活用する事業

※【コラボ事業】：H29年度に新設された、振興局が市町村と協働でプロジェクトを実施する事業

令和3年度 観光局の施策体系

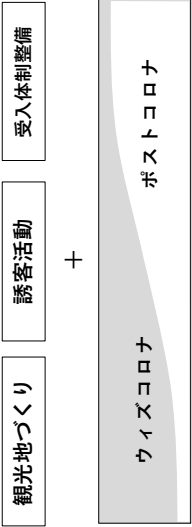
**本道観光の現状と課題**

- 安定した観光入込客数の増加には、災害等や国際情勢による影響の縮小化が必要
- 観光消費単価向上には、モノ消費からコト消費への流れへの対応が必要
- ウイズコロナ・ポストコロナ時代を見据えた新たな旅行スタイルを定着させていくことが必要

**北海道観光が将来的に目指す姿**

- オンリーワン！自然・食・文化を活かした観光地
- いつでも！どこでも！何度でも！
- 誰もが安全・安心・快適に滞在
- 持続的な観光関連産業の発展

－ 目標 －  
**「観光立国北海道」の再構築**



新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた感染拡大防止と社会経済活動の両立

新型コロナウイルス感染症の取栗を見据えた新たな旅行スタイル等の推進

**施策の展開方向**

**クリーン北海道**  
 ～「安全・安心」で選ばれる観光地～

**量×質の追求**  
 ～満足度向上と運動した消費単価の向上～

**旅行者比率のリバランス**  
 ～感染症の状況に応じた誘客対象の最適化～

**新しい旅行スタイルの推進**  
 ～ワーケーション、AT等新たな北海道観光価値の創出～

**観光インフラの強化**  
 ～地域における観光インフラの充実～

(単位：千円)

事業名	
①教育旅行支援事業費 (再掲)	1,586,690
国内誘客促進強化事業 (再掲)	343,348
海外誘客プロモーション推進費 (再掲)	158,384
AT受入体制整備事業費 (再掲)	107,196
MICE誘致支援事業費 (再掲)	30,961
北海道観光誘致推進事業費 (再掲)	135,535
アドベンチャーワールドサミット開催推進費 (再掲)	50,000
アウトドア活動振興調整費 (再掲)	2,675
②広域連携DMOとしてのデジタルマーケティング事業	142,984
③観光連携計画事業費	6,327
東京誘客プロモーション推進費 (再掲)	158,384
東京オリパラ2020を契機とした観光プロモーション事業 (再掲)	20,037
どさんこ旅サロンの運営・利用促進事業 (再掲)	12,720
国内誘客促進強化事業 (再掲)	343,348
広域観光高遊促進事業費 (再掲)	160,062
AT受入体制整備事業費 (再掲)	107,196
ユニバーサルリズム推進事業費 (再掲)	20,000
北海道観光誘致推進事業費 (再掲)	135,535
アドベンチャーワールドサミット開催推進費 (再掲)	50,000
北海道ワーケーション誘致推進費 (再掲)	274
④国内誘客促進強化事業	343,348
⑤観光顧客店連通店動引事業費 (どうみん制)	1,974,309
⑥海外誘客プロモーション推進費	158,384
⑦運営オリハラ2020を契機とした観光プロモーション事業	20,037
⑧どさんこ旅サロンの運営・利用促進事業	12,720
⑨北海道教育旅行活性化事業費	23,540
⑩観光客夜間消費拡大促進事業費	6,132
⑪地域の新たな海を型観光創出事業	3,092
⑫観光人任用によるインバウンド強化事業費	5,576
⑬北海道ワーケーション誘致推進費	274
⑭地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費 (ワーケーション枠新設) (再掲)	235,328
⑮AT受入体制整備事業費	107,196
⑯広域観光高遊促進事業費 (再掲)	160,062
⑰MICE誘致支援事業費 (再掲)	30,961
⑱AT受入体制整備事業費 (再掲)	107,196
MICE誘致支援事業費 (再掲)	30,961
広域連携DMOとしてのデジタルマーケティング事業 (再掲)	142,984
北海道観光誘致推進事業費 (再掲)	135,535
アドベンチャーワールドサミット開催推進費 (再掲)	50,000
⑲①地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費 (ワーケーション枠新設)	235,328
⑲②AT受入体制整備事業費	107,196
⑲③アドベンチャーワールドサミット開催推進費	50,000
⑲④MICE誘致支援事業費	30,961
⑲⑤アウトドア活動振興調整費 (再掲)	2,675
⑲⑥北海道ATガイド認証制度後継事業 (再掲)	368
⑲⑦広域観光高遊促進事業費	160,062
⑲⑧観光人材育成事業費	30,853
⑲⑨ユニバーサルリズム推進事業費	20,000
⑲⑩北海道観光誘致推進事業費	135,535
⑲⑪観光人材マッチング支援事業費	33,687
⑲⑫北海道ATガイド認証制度後継事業	2,675
⑲⑬北海道さっぽろ「食と観光」情報館運営費	40,126
⑲⑭住民客泊車庫法関連事業費	15,925
⑲⑮住民客泊車庫法関連事業費 (再掲)	107,196
AT受入体制整備事業費 (再掲)	142,984
広域連携DMOとしてのデジタルマーケティング事業 (再掲)	142,984
観光人任用によるインバウンド強化事業費 (再掲)	5,576

(その他 事務費等 9,215)

**観光予算計 (コロナ禍特別対策事業\*含む)**  
 7,648,044

観光局事業 5,155,344 (うち機構負担金1,689,696、コロナ禍特別対策事業3,560,999)

他部局事業 2,492,700 (うちコロナ禍特別対策事業2,200,000)

◎ = 新規、拡充 ○ = 継続 ◇ = コロナ禍特別対策事業

※最も合致する展開方向を本掲とし、その他は再掲としている。



北海道、青森県、岩手県及び秋田県は、世界自然遺産「白神山地」や「知床」、美しい自然が今なお色濃く残る、緑豊かなところです。北海道・北東北の縄文遺跡群は、この豊かな自然の恵みを受けながら1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した縄文時代の人々の生活と精神文化を今に伝える貴重な文化遺産です。

その価値が認められ、令和3年（2021年）7月、北海道・北東北の縄文遺跡群は世界文化遺産に登録されました。

## 北海道観光の現況 2021

---

発行日 2022年2月

作成 北海道経済部観光局観光振興課

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

電話 (011)206-6596 内線 26-586